沖縄市文化財調査報告書第10集

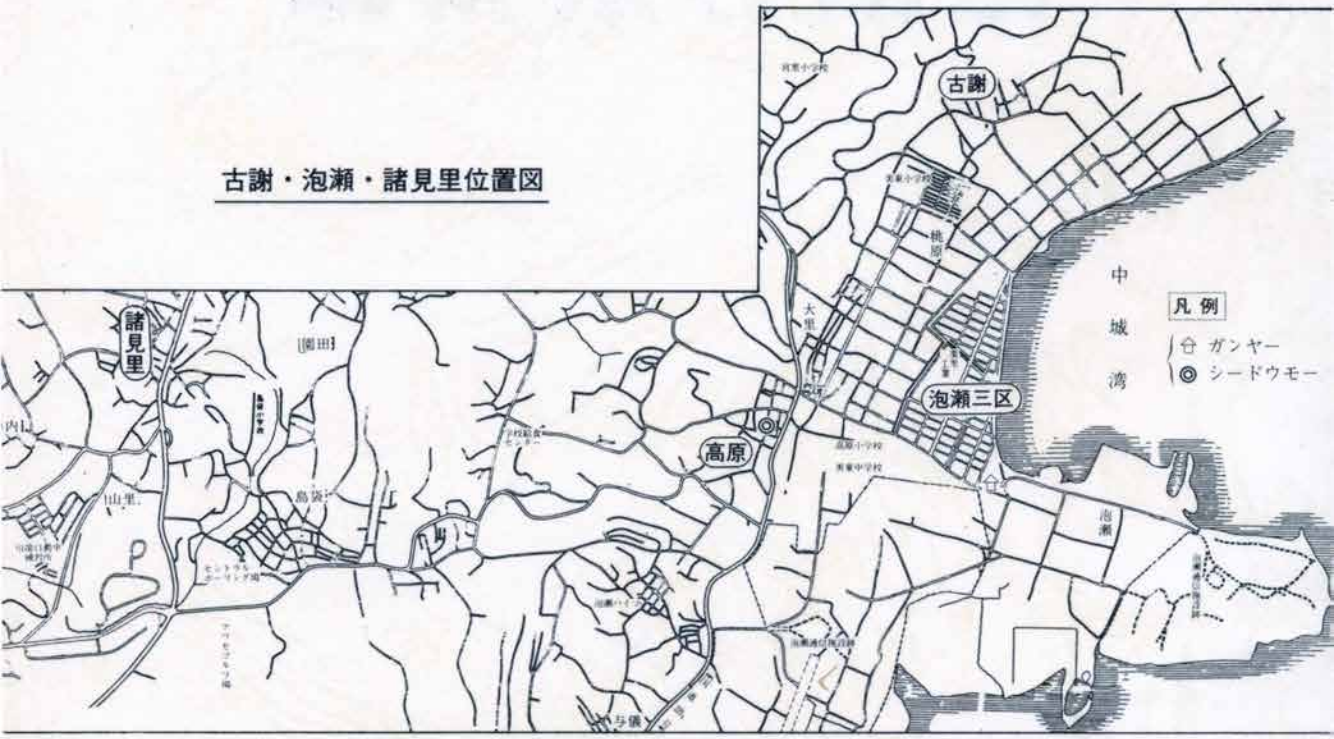
泡瀬の京太郎

昭和62年 3 月

沖縄市教育委員会

泡瀬の京太郎　調査報告書　昭和六十二年三月　沖縄県沖縄市教育委員会

古謝・泡瀬・諸見里位置図



泡瀬の京太郎（正誤表）

ページ	行	誤	正
9	15	紛　装	扮　装

追　加

44ページ　　顧問の欄　　1名追加

兼　島　謙　祐　　沖縄市泡瀬224

電話　7－8769

上記の通り誤りがありましたので、訂正してお詫び申し上げます。

発　刊　の　こ　と　ば

このたび「泡瀬京太郎調査報告書」を市民の皆様にお届けする事ができまして まことに御同慶にたえません。

戦後のあらゆるものの不足な不安定の社会情勢の中で，いち早く保存会を結成され，昔ながらの京太郎を正しく引き継ぎ，伝承されてこられました多くの先輩の方々の御努力に深く敬意を表します。

泡瀬の京太郎は昭和53年４月に沖縄市の民俗文化財に指定され，その後昭和55年に沖縄県で初ての県指定無形文化財に指定されました。

演舞は，「早口説」「扇子の舞」「御知行の歌」「馬舞者」「鳥刺し舞」から成り，明治39年に故喜屋武盛宏翁を中心とする方々が、首里のスンガー芝居から習い覚えて上演したのが始まりだといわれ，以来，村芝居や各種行事の出しものとして連綿と継承されてきました。

この報告書の発刊が学校、家庭での親子の郷土学習や国際文化観光都市宣言の沖縄市を知る為の一助となり，同時に文化財の保護活用に一層のご理解と御協力をいただければ幸いだと思います。

最後に当報告書の出版にあたり，ご協力を賜りました関係各位に感謝を申し上げます。

昭和６２年３月

沖縄市教育委員会

教育長　**比　嘉　徳　進**

報告書発刊によせて

泡瀬の京太郎は，首里の寒川芝居で上演されていた舞台芸能を役者であった冨里のターリーから喜屋武盛宏さんが習得し，泡瀬の若者に教え，保存継承されてまいりました。

泡瀬では明治39年，葬儀に使われる龕(ガン)の仕立祝に，余興として京太郎が始めて上演されたのであります。以来，大正，昭和と青年達に継承され，昭和55年３月に，沖縄県の無形民俗文化財に指定されて今日にいたっています。

泡瀬京太郎の保存，後継者育成のために，沖縄市と泡瀬復興期成会より補助金を頂き，それを基金にして会員一同，保存会の活性化に努めています。

京太郎芸能は，本県や本土の或る地域にも伝播され，型を変えて残っています。そこで当保存会としては，京太郎の類似芸能の比較研究や，そのルーツ，歴史的背景の探究，不明歌詞の解明等を課題にしてとらえています。さらに，京太郎芸能に，より一層の磨きをかけるために，化粧係，衣裳係，地謡，ニートイ，踊り手，演技指導者，後継者の育成を行い，組織の強化を図りたい所存であります。

近年，保存会では青年部の自発的提案によって，施設の慰問公演を行い，お年寄りから喜ばれています。また，後継者育成の一環として，地元の小中学生を対象に，子供チョンダラーを特訓し，毎年催される盆踊りには上演して好評を得ています。

申すまでもなく民俗芸能の特色は，地域に根ざし，人々の連帯感を深め，人間関係の縦横のリレイションシップを強くし，地域の発展に寄与するファクターを持っているといえましょう。

泡瀬に京太郎があることに地元のわれわれは誇りを持つと同時に，保存と継承の義務があると受けとめています。

泡瀬京太郎保存会

会長　中　地　名　常

目　　次

発刊のことば

報告書発刊によせて

第1章　概　　況 …… 1

第2章　泡瀬の京太郎 …… 5

第3章　京太郎の分布 …… 25

第4章　保存会の会則・組織及び沿革 …… 42

あ　と　が　き …… 47

第１章　概　　況

1.　沖縄市の位置と泡瀬の沿革

(1)　沖縄市の位置

沖縄市は那覇の北方19Kmに位置する。当市は１９７４年（昭和49年）に美里村とコザ市が合併して誕生した。行政区は36ケ字で構成され，人口105,067人（昭和61年11月１日現在），世帯数31,073戸である。面積は4,873*ha*で土地利用現況は畑が800*ha*，住宅地477*ha*，その他の住宅地180*ha*，森林および原野522*ha*，基地1,857*ha*（総面積の約39.5％）である。

(2)　泡瀬の沿革

泡瀬は当市の東部に位置する集落で，戦前は山原船が諸物資を運ぶ港町として栄え，また，泡瀬※マース（アーシマース）とタルガー（樽）の生産地としても有名であった。歴史的には，１９０３年に高原村より分離して泡瀬村が成立，その後幾多の変遷を経て現在に至っている。以下，田里友哲氏作成の沿革を紹介する。

※マースとは方言名で〝塩〟のこと

〔近　　世〕

泡瀬の沿革を通史的に記述することは無理で，したがって本稿では古地図や文献にみられる地名表記の変遷によってその推移をたどることにする。

元禄15（１７０２）年

琉球国絵図（幕府撰元禄国絵図）によると，中城湾内の北側に「あせ嶋」「あふ嶋」の二つの無人島があり，その平仮名表記の「あせ嶋」はその位置関係からみて，後（のち）の泡瀬であることは疑う余地がない。したがってこの「あせ嶋」は、古地図の地名表記の初見のものである。

寛延元（１７４６）年

『美里村史』の著者は，美里間切地図（白蟻で喪失）に「あわせ小離」「あわす小離」と記載されていたことを記憶していると紹介された。

明和５（１７６８）年

泡瀬開拓の祖と崇敬される樊（はん）姓高江洲義正翁があせ嶋に入植されたのが明和５年である。翁は読谷山間切の在番（諸浦在番）を退官されると，いち速く一家をあげて首里を離れ泡瀬下りをされた。当時は士族の転職を奨励する時代になっていたから，失業士族は首里那覇を離れて田舎へ下り，士族帰農を急がざるを得なかった。それらの士族は居住人（きょじゅうにん）（チュジュー）と呼ばれ，在来の人は地人（ちじん）（ヂーンチュ）と呼び区別していた。居住人で構成される集落を屋取（やどり）（ヤードゥイ）と称している。高江洲翁は無人島のあせ嶋を安住の地と定め，農耕に，製塩に孜孜として働き，あせ嶋の開拓に尽力された。かくて泡瀬210余年の開拓史が始

まったわけである。

文化２年（１８０５）年及び文政８（１８２５）年

この両年の『球陽』巻20の記事に，始めて漢字表記の泡瀬という地名が見える。文献で確認できる泡瀬地名の初見のもので，したがって地名の起源はこの文献に求めることができる。

元治２（１８６５）年

「琉球国諸嶋之図」にはすべてカタカナ表記の「アセシマ」「アフシマ」とある。

〔近　現　代〕

明治７（１８７４）年

琉球国全図には「アセ島」「アフ島」となっている。

明治７（１８７４）年

『沖縄の犯科帳』に戸籍に関する事件のうち泡瀬に居住する士族の場合の事情についての記録がある。首里から田舎下りをした泡瀬の居住人は，農民と同じ生活をしていても貢祖や課役などは免除されるなど士族としての特権をもっていた。それで子供が生まれると，首里の系図座まで出かけて，「生子訴え」（出生届）をして系図に登録してもらうという手続きをするわけであるが，たまたまその「生子訴え」の手続きをおくれたため裁判沙汰になったという一家の事情が詳しく述べられている。ここではその内容については割愛するが、その頃の住所が「美里間切高原村境内泡瀬」となっていて，まだ独立した村ではなく高原村の配下の印象が強い。

明治10（１８７７）年

『沖縄志』の沖縄島全図には「アゼ島」とあり，同書の中城城址図には「阿瀬」となって充当文字が異字表記になっている。

明治13（１８８０）年

県史20巻の付録の統計概表（共武政表）には泡瀬島となり，まだ行政村（字）とはなっていない。戸数356，人口男1,025，女1,007，計2,032人である。

明治17（１８８４）年

沖縄県地誌署（りやく）には泡瀬島とある。この地誌書は沖縄県師範学校の教育用のテキストとして編集されたものであるが，文中に「泡瀬島ハ製塩の業甚タ盛ナリ」とある。

明治18（１８８５）年

明治19（１８８６）年

沖縄県管内図，沖縄本島略図はともに泡瀬島の表記である。

明治23（１８９０）年

この年に刊行された「日本国勢地図」20万分の１によると，毛羽式の描図ではあるが，泡瀬は島ではなく半島状に人工改変されている。この頃に陸続きになったと考えてよい。

明治36（１９０３）年

この年は土地整理事業が完了し，これまでの土地公有制から私有制に移行した画期的な大変革であった。今一つは高原村から分離独立して泡瀬村が成立したことである。このような

屋取集落から独立して村となった事例は佐敷町２例，具志頭村などにある。明治36年以後は，多くの事例がみられる。泡瀬の戸数401戸，人口3,012人である。

明治39（１９０６）年

「アーシマース」の異名で知られる泡瀬の製塩業は王府時代に始まり明治，大正，昭和，と変遷したが，とくに明治期の製造高は県下一で，塩田面積20町，製塩戸数220戸，住民の命は殆ど塩をもってつないでいる状態である。旧暦８月15夜の前後に村芝居を挙行したが，それは他村民との交際的意味を持つ行事であった。人口2,945人，戸数498戸。

明治42（１９０９）年

前年の明治41年に特別町村制が公布され，間切・島は町村に，村は字に改称される。琉球新報の記事によると，戸数489戸，人口3,085人，主なる職業をみると，製塩業204，製樽業80，染物屋30，料理屋５，材木商９，雑貨屋30，医師１，郵便局１，駐在所１。

昭和15（１９４０）年

明治の末期から昭和の前期までは泡瀬隆盛期と言える。旅館，料理屋，飲食店，屠場，市場などがあり，製塩，製樽は泡瀬の基幹となる職業である。

沖縄市位置図

2. 指定に至る経緯

泡瀬の京太郎は，沖縄県文化財保護条例（昭和47年沖縄県条例第20号）第27条第1項の規定により，昭和55年3月31日に沖縄県無形民俗文化財に指定された。以下，指定に至る概略を紹介する。

泡瀬の京太郎（昭和55年3月31日指定）

1. 指定名称　民俗文化財　泡瀬の京太郎
2. 種　別　無形民俗文化財
3. 所 在 地　沖縄市字泡瀬
4. 保存団体　泡瀬京太郎保存会（会長　田里友吉）
5. 指定理由

(1) 指定基準

沖縄県文化財の指定・認定・選定及び選択基準（昭和52年沖縄県教育委員会告示第4号）

第5　県指定無形民俗文化財指定基準

2　民俗芸能

(2)　芸能の変遷の過程を示すもの

(2) 説　明

京太郎は，わが国中世に京都を中心とした祝福芸が遊歴の芸能人によって沖縄に伝播したと思われる門付芸能である。古く首里の郊外安仁屋村に住んでいた人々が士族の屋敷や村々を訪れ，フトゥキーという人形を操る芝居や本土の春駒，升斗舞，鳥刺し舞と同系統の踊りを演じていたが，次第にその芸を保持していた集団が四散解体し，芸も消滅しようとする明治30年代に，首里の寒水川芝居において舞台芸能として再編，上演された。……中略……

また，京太郎はその様式の一部が組踊，民俗芸能にも取り入れられるなど影響を与え，芸能の変遷の過程を示すものとして価値が高い。今日，泡瀬のほかに宜野座などでも京太郎は村踊りなどで演じられている。

（『文化行政要覧』昭和55年度　沖縄県教育委員会より抜萃）

第２章　泡瀬の京太郎

1. 由　　来

(1) 京太郎について

京太郎は沖縄大百科事典によると「明治初期ごろまで首里のアンニャ村を根拠地として首里近郊，中・南部まで出かけて人形を使って数々の芸を演じた門付け芸人およびその芸能をいう。京太郎とは京都からきた太郎の意で，本土（京都）から渡ってきたといわれている。祝儀には万歳を奏し余興に鳥刺し舞や馬頭をつけた踊りを披露した。また俗にフトゥキー（仏）と称する人形をたずさえて人形芝居を演じ，さらに家々で法事があるときには供養の念仏歌をうたった」（当間一郎）といわれている。

筆者が今帰仁村諸志できいた話を紹介しておく。明治10年代のことである，サンダラー（京太郎）は７月頃よくやってきた。笑い顔の面をかぶり太鼓をたたく者の外，女の人は馬の形をしているのをつけ４，５人グループでやってきた。ウフヤ，ウフヤをまわり人形を踊らしてあと室内に入り仏壇に焼香し，お経をあげたりした。家では謝礼として接待のお茶やチャワキは別としてムミンバナや米を１，２升贈った。いくらあげるかは施主が決めたという。

このことから北部にまで京太郎が足をはこんでいたことがわかるがさらに徳之島にキョーダラ（キョーダ）という芸能があり，現況のものは沖縄の京太郎とは趣を異にするが「徳之島町誌」では京太郎につながる言葉であることはたしかであると指摘している。なお泡瀬に関連していえば泡瀬の本字である高原にシードゥモーという地名があり，ここは首里のモノクイシードー達が各地を旅行するとき高原村一帯での仮泊の地であったということである。

京太郎や念仏者はいずれも「行脚乞食之類」とはなはだ低い評価をうけ，いわば賤民扱いであった。京太郎は門付芸を主体とし，念仏者は庶民の葬儀にかかわることを第一義としていた。それが京太郎，念仏者が共に同義語的に人々に理解されているのはこの両者が首里のアンニャ村という特別な集落というイメージの特定地域に集中居住していたこと。京太郎と念仏者がいずれも念仏歌，そして法事にもかかわったことに由来するかもしれない。

京太郎が必要に応じて念仏者の役を演じた可能性は考えられるが念仏者が必要に応じて京太郎（人形芝居）を演じたかどうかについては定かでない。京太郎と念仏者は本来別々で―念仏者集団は那覇の垣花にも住んでいた―京太郎（門付芸）が衰微して念仏者に転じる傾向が生じたことが京太郎，念仏者の同一視につながったのではなかろうかと私は推則している。

このニンブチャーについては※注1 15年戦争の頃まで存続し沖縄の葬式儀礼には不可欠のものとして重要な位置を占めていた。なお，京太郎の沖縄への進出は17世紀が想定されている。1609年慶長の役にさいしてはスパイ役として事前に侵入していたといわれることもあるよ

うであるがその事実関係は別としてこの頃，つまり16世紀後半頃もしくは17世紀初期は沖縄各地を行脚し人々の関心をあつめていたという耳新しい人々（京太郎）であったことをうかがわせる。念仏者の足跡は八重山まで及ぶが京太郎もまた渡来は別として無蔵念仏等からみてその影響は八重山までも及んでいたことがうかがえる。

なお，京太郎，念仏者は宗派としては浄土宗系と目されているが法華宗や弾宗も行者し人形まわしや万歳の祝言をとなえていたのであるから浄土宗とのみ片づけるのはどうかという見方もある。

(2) 京太郎渡来説話

沖縄への京太郎渡来説話が宮良当壮によつて直接京太郎から採録されたのが「沖縄の人形芝居」の中に紹介されているのでその説話部分を全文引用する。

京都の街近くに一つの岩窟があって，そこに貧乏な夫婦と，その間に生まれた子供と3人で暮してゐた。夫はその妻が余りに美人なので，その側を離れて野良で仕事をするのを厭がっていた。併しいつまでもかうしてゐては食にも困るので，丹念して漸く妻の絵姿を描き，そしてそれを畑で自分の仕事をする目の前に棒を立てゝ掲げそれを見ながら仕事をするようにしてゐた。かうした日が幾日か続いた。所が或日突然施風が襲って来てその絵像を捲き騰げてしまった。夫の落胆は一方ではなかった。

所で，その絵像は幸か不幸か，京のお城の庭中へ墜ちた。役人はそれを拾ひ取って驚喜した。併しお咎を蒙つては大変だと直にお上へ差出した。お上ではこれを御覧になって非常なる御機嫌，そして仰せられるのには，こんな絵があるからには天下何処かにかういふ美人がゐるに相違ないと。それで早速家来共を四方へ走らせて京の内外を探さしめられた。所が却々見付からなかった。時に例の岩窟の中では妻と子供とが食事をしてゐた。そこへ捜索人が踏み込んで来て，子供を残して妻女を浚って行った。妻の絵像を失って落胆しながら畑から戻って来た夫は，その由を聞いて狂はんばかりに驚き且つ悲しんだ。併しお上の仰せとあってはどうすることも出来なかった。今まで命と頼んでゐた妻を奪ひ去られた夫は，せめてもう一度だけでも妻の顔を見たいと思ひ，日夜苦心して遂に人形芝居と万歳とを案出し，そしてこれを子供にも仕込んだ。

癒々正月元日のあした，父子は京のお城へ乗り込んで目出度くその新案の芸当を演じて，轟くばかりの拍手と賞讃とを浴びせられた。この時妻（今はお上の側女）は早くも自分の夫であることに気が付いてゐていた。併し口に出す訳にも行かないので，角袋（ツヌブクル）といふものを作り，その底の方に数多の小判を入れ，その上にお米を盛って小判を隠してやった。その時夫は美々しく着飾った天女のやうに麗はしくなった妻の姿を見てたゞ拝跪するばかりであった。

その後父子は屢々お城へ行った。その都度妻は角袋を作って例のやうに小判を入れてやった。幾度か重なる中に到頭発覚して，父子をこの地に置くことはお上の御為でないと，遂に島流しに処せられることになった。その島が即ち沖縄島である。それ以来彼等はチョートゥ，タラー（京都太郎）といはれて，人形芝居や万歳や念仏を唱へ，鉦叩きなどをして各地を廻り歩いた。

この説話はいわゆる絵姿女房系の説話で沖縄ではこの他，多良間でも採集され恩納村でも採話されているという。部分的には八重山のヤーマール[※注2]コーザー説話や沖縄市のカフンジャー橋由来にも相通ずるものがある。

(3) 寒水川芝居（寒川芝居）

寒川芝居は首里の寒川に本拠をおいた商業芝居のことをいう。きわめて宮廷芸能の色彩の濃いものであったらしい。

沖縄大百科事典によると1892年に新設され1914年，那覇，首里間の電車開通にともない敷地の一部がけずりとられその幕をとじた（宜保栄治郎）という。芝居の者は辻の端道に引越した（「沖縄風土記首里城周辺」一新垣恒篤）といわれている。

この寒川芝居の実際の活動状況については定かではない。しかし泡瀬や宜野座の京太郎はその流れをくみ，石川市伊波の京太郎も名護市呉我の京太郎もその系列に属するようである。「幸喜部落の歩み」によれば幸喜村につたわる竹富節（別名ちぢみばやし）の踊りも寒水川芝居からきたものという。

寒水川芝居の京太郎は矢野輝雄の「よみがえる京太郎と古典舞踊の手」（沖縄タイムス朝刊，78年11月21日）によれば寒川芝居の経営者大礼和尚が舞台化したものであるという。

寒水川芝居の劇団は地方巡業もやったようで1902年8月7日の琉球新報に「首里の寒水川芝居は数日前中頭郡美里間切泡瀬へ打出だし，目下同地にて興行中なるが初日以来思はしき観客もなく座主一同余程弱ハリ居る由にて遠からず同地を引揚げ何処へか打出す模様なり」（沖縄市史第8巻）と巡業にきたもののその時は観客が少なく困ったようすを伝えている。

(4) 泡瀬の村芝居

泡瀬村は美里間切高原村の屋取りで18世紀後半に移住がはじまったといわれている。現在，沖縄市の字となっているが，かって製塩業と奄美や北部の村々あるいは与那原と結ぶ港として栄えた町である。農村とはやや趣をことにした村落であるが村芝居という農村の伝統をとり入れている。

本稿の泡瀬京太郎についての話者は泡瀬在住の高江洲義總（1895年生）である。本稿の記述は高江洲の話にもとづくものである。

泡瀬の村芝居は13ケ年ごとに開催するならわしであった。京太郎踊りを泡瀬の村芝居にはじめてとり入れたのは高江洲の12才の時でこれは強く印象にのこった村芝居であったという。

村芝居はまず青年達が開催したい意向をかためると字の有志に許可を求める。それを「いぐますん」という。それが7月盆のときであった――盆にはエイサーをやっていた――了解をとって実際にこの年にやったのは9月15日からで5日間の予定であった。

今回の村芝居開催の理由は二つあって一つはコー（龕）をしたてたこと，あと一つは村井戸のわくを拡張したことであった。

それまで泡瀬は葬式のたびに隣村の桃原村よりコーを借用していた。コーは別称アカンマーともいい泡瀬大工がつくった。ガンヤーは現在の泡瀬三区公民館近くゲートボール場の処に設けた。コーは戦後米兵に盗まれ今はない。

コーの維持管理者としマチサジ（町佐事）を2人おいていた。町佐事がガンヤーの鍵を保管した。町佐事の1人はニンブチ（念仏者）であと1人はタカラムンムチャー（タカラムチ）というコー道具もちである。この2人に対して1日交代で町佐事の仕事を与えた。町佐事の仕事は泡瀬の町小（マチグゥー）の掃除にあたることであるが同時に泡瀬の町小にカミアチネーでバーキに芋を売りにくる者のみから町小使用料としてイモを2個，もしくは一銭を徴収し自己の収益にすることを認めていた。

井戸はアーシヌヌミミジガー（飲料水用井戸）といい当時泡瀬の井戸はここ1ケ所であった。

泡瀬の村芝居は手踊り（羽踊り），ティー（空手），狂言，棒，組踊りがあり，今回新たにチョンダラーをとり入れることになった。手踊りの演目は数かぎりなくあった。泡瀬の村芝居でやった狂言にはイーバルヌチンヌクジューシー，ンールーキョーギン，ヴーンミキョーギン，魚釣りキョーギン等々があった。組踊はグサマルとムトゥブであった。この京太郎をとり入れる前回の村芝居の時はムラバルと久志の若按司をやったと伝えられている。

村芝居はそれぞれ分担を決めたが女は村芝居へ出演することは認めなかった。

京太郎を演ずることになった人達は泡瀬婿で寒川芝居ヤンリ（イェーグニの芝居）のフサトュヌターリー（屋号フサト，名は不詳）が泡瀬に住んでいたのでこの人から京太郎を習った。（なお，今までの泡瀬京太郎の報告では首里の寒水川芝居へ習いにいったと記されているのもあり，また寒川芝居が興行に来たとき習ったものを村芝居で復活させたいというのもある）師匠であるフサトュヌターリーは寒川芝居ヤンリだったため相当きびしい練習であったという。

村芝居は警察の許可も得て9月15日から5日間の予定で毎日昼3時頃から夜の12時頃までやったが大評判となり，結局2日間延びて7日間やった。場所はアシビナーである。

アシビナーはビジュルの東側，水産組合にいく入口の附近にあって600～700坪の面積があり，池もあった。

高江洲義總によると京太郎は敵討ちのために京太郎にしくんでその道行を描いたものであるという。第1回目の京太郎では敵討ちの場面もあったが現在の泡瀬京太郎はその部分を割愛して上演している。

はじめて京太郎をしくんだ村芝居の時，ある人が舞台の上で「カーンフイケーティ（カーンチュクイケーティ）イズミワキンジュルムラヌサカイ」と詠んで拍手喝采をあびて評判になったという。

村芝居のナカウドゥイでゴサマル（組踊）をだしその次に京太郎（夕方6時頃）をだし最後はムトゥブ（組踊）であった。この順序は大体決っていた。なお京太郎の上演時間は1971年5月14日コザ琉米親善センターでひらかれた中部地区民俗芸能大会の予定プリントでは所要時間60分となっている。

初演以来，芸能としての泡瀬京太郎はたびたび上演され現在に継承されている。なお上演記録は「泡瀬京太郎」に詳しく記録されているので参照されたい。なお義總によればコーヌニンチである13年忌や25年忌にも京太郎を演じ，25年忌にはコーの色を塗り変えたという。コ

ーの各年忌には嶽々でガンモーしてから村芝居をしたということである。

2. 構　成

泡瀬の村芝居は他村と同様出演者はすべて男性であった。女役は「女形」ということになる。高江洲義總によればはじめて泡瀬に京太郎をとり入れた時の人数は楽屋での大太鼓打ちや三味線を除いて，出演者はワザニン24人，ヤチメー1人，ウヤカー1人，ウマモーラシ2人，ニートイ1人であったと記憶しているという。現在はウヤカー役やヤチメー役は欠いているのでワザニン，ウマモーラシ，ニートイが出演する。勿論今も出演者は青年男子である。舞台上に出演する者はニートイ1人と馬舞者2人は固定していてワザニン（踊り手）は決った人数ではなく9人とか29人とか必要に応じて増減していて特に定めた人数はないようである。

3. 組　織

1958年泡瀬京太郎保存会が結成された。会則も制定され顧問，正副会長，書記，会計，監事，理事，演技指導部長等がおかれている。ことあるごとに上演されていて現在しっかりした体勢が整っている。なお詳しくは本書別項「泡瀬京太郎保存会の組織及び沿革」を参照されたい。

4. 紛装・楽器・道具

衣裳については前川守夫の「泡瀬の京太郎」によくまとめられているのでそれから紹介しておきたい。「衣裳は太鼓打ちが白の胴衣に黄茶色の陣羽織，股割れの赤紫色の陣袴，焦茶色の胴帯，青色の頭巾（帯），白黒の縦縞の脚絆，黒色の足袋で馬舞者は陣羽織の色が緑で他は太鼓打ちと同様な衣裳である。踊り手は白の胴衣に黒の着物，赤紫の胴締帯，青色のタスキ帯および頭巾，黒の足袋姿で，踊りの小道具として用いるのは太鼓打ちが太鼓とバチ(2本），馬舞者が赤い手綱（帯）をつけた木馬，踊り手が黒塗りに3つ邑を描いた陣笠，扇子（1本)」である。

高江洲義總によると以前は素足で脚絆であった（1940年の写真では足袋をはいている）髪もマヤーガキして「サージかんてぃ」やった。現在の髪型とは若干異っていると思うとのことであった。

5. 設　備

上演のための特別な設備は必要としない。芸能が演じられる適当な広さがあればよい。現在は舞台芸能として演じることが普通である。

6. 芸　態

芸態についても前記，前川守夫の「泡瀬の京太郎」から要約し紹介する。

京太郎演目は早口説，扇子の舞，御知行の歌，馬舞者（狂言），鳥刺し舞の順で演じる。

早口説は扇子の舞いまでの体勢を整えるための出羽の舞いである。頭に陳笠を被り，扇子を帯にはさんだ踊り手の集団が右手より一人一人列して地謡の三線の音曲に合わせて勇ましく登場する。

最後の音曲が止むと踊り手は一斉に中腰で舞台の下手寄りに縦隊に座し太鼓の合図を待つ。最初の「ポン」の一打で立ち「ポンポン……」の連打の合図で舞台の上手の方へ横隊の形をとり，扇子を右手に持って額衝く姿勢で扇子の舞の詞曲を待つ。『アッパリガヤリカリ』の太鼓打ちの曲とともに扇子を開いて舞いが始まる。扇子の舞が止むと踊り手は扇子をもとの位置（胴帯にはさむ）に戻し，頭の陳笠の顎紐を解いて右手に移し持ち左足膝を地に着け，右足膝を立てる姿勢で御知行の歌の動作に入る。『ンーン，マタヨウネ』の太鼓打ちの詞曲で踊りが開始する。御知行の歌の踊りがおわると馬舞者が交互に台詞を述べつつ道化狂言を演じる。それが終わると入れかわる形で踊手の集団が下手から陳笠を腰の帯に結んだ姿で登場し，鳥刺し舞を演じて京太郎踊りを全て終了する。

7. 特　色

泡瀬の京太郎芸能は沖縄各地を遊行した門付芸能（京太郎）とは性格を大きく異にしている。下級宗教者たる京太郎達の人形芝居は彼らの生活の維持をふくめて門付祝福芸であったのに対し，現在の泡瀬京太郎は門付という機能はなく人形そのものも使わない。目的において基本的に異なる性格になっている。

現在は一つの舞台芸能── 但し村芝居という民俗上の位置は別として──という位置に変わっているのである。

宜野座，伊波，呉我等の京太郎芸能は消滅した寒川芝居の一部をいまに継承している点でも重要である。宜野座や伊波等の京太郎は泡瀬の京太郎以上に寒川芝居の姿を継承しているといえるが泡瀬京太郎は一部省略した反面，より洗練されたそれだけでもすぐれた舞台芸能としての美をも備えもつようになっている。

遊行芸の京太郎を寒川で舞台演芸に仕立てたとき，基本的には遊行者達の京太郎芸能を踏襲したはずである。したがって消滅した遊行者の人形劇京太郎について考察する上に欠かせぬ重要な手がかりを現在に伝えていると思われる。

また沖縄は地理的，社会的に文化の十字路的な一面をもち南方系や大陸系，あるいは北方系（日本）の芸能が交錯する位置にある。京太郎芸能は北方（本土）と沖縄の宗教及び芸能にかかわる一面をも今に伝える役目をはたしているといえる。

8. 京太郎関連文献目録

(1) 「琉球の音楽芸能史」（1959年）山内盛彬，民俗芸能全集刊行会。
京太郎（口絵），京太郎（項目）79－85

(2) 「南島研究9号」（1968年）南島研究会。
沖縄の人形芝居──泡瀬のチョンダラー（当間一郎）24－34頁

(3) 「沖縄の芸能」（ 1969年 ）三隅治雄編邦楽と舞踊社。
京太郎（83－84）。 京太郎（ 507－ 508 ）。 宜野座の京太郎（ 508－ 509 ）。 泡瀬の京太郎（ 509－ 510頁 ）
(4) 「組踊の世界」（ 1972年 ）当間一郎，錦友堂写植。
沖縄の人形芝居――泡瀬のチョンダラー（ 221－ 244頁 ）
(5) 「コザ市史」（ 1974年 ）新屋敷幸繁，コザ市役所
京太郎（ 936－ 937頁 ）
(6) 「沖縄市の文化財第一集」沖縄市教委，泡瀬の京太郎（34－39頁 ）
(7) 殷元良筆編本着色花鳥図，紙本着色雪中雉子の図，有形文化財に指定，県教委泡瀬の京太郎は諮問（ 琉球新報朝刊，79年 3 月26日 ）
(8) 「盛り上がる舞台京太郎に迫力――きょうから郷土民謡と演劇」（ 新報朝刊79. 4. 23 ）
(9) 「泡瀬の京太郎沖縄市の文化財に」（ 新報朝刊， 1979年 4 月19日 ）
(10) 「民俗芸能公演」（ 第 8 回県芸パンフ ）（ 1979年 ）
京太郎（ 宜野座 ）（ 12－13 ）。 京太郎（ 伊波 ）（ 16－21 ）。 泡瀬の京太郎（ 22頁 ）
(11) 「泡瀬京太郎」（ 1980年 ）泡瀬公民館刊？
あいさつ，祝辞，感謝状贈呈者の紹介（1）。京太郎を観て―山内盛彬（9）。泡瀬村の由来記―当真勲（10）。 軌道口説（14）。 泡瀬京太郎の由来―当真勲（15）。泡瀬京太郎の謡（16）。 泡瀬京太郎の歌詞（20）。 京太郎歌詞の比較―当真勲（30）泡瀬の京太郎無形民俗文化財に指定される（49）泡瀬京太郎の沿革（52）。 泡瀬京太郎保存会会則（54）。 泡瀬京太郎保存会役員名一覧（56）。 あとがき（58頁）。
(12) 「県教委泡瀬の京太郎を指定，無形文化財に」（ 沖縄タイムス朝刊，80年 3 月26日 ）
(13) 「京太郎に観客うつとり―無形文化財指定の記念公演」（ 新報朝刊，80年11月11日 ）
(14) 「泡瀬の京太郎を無形民俗文化財に―県教委が指定を承認」（ 新報朝刊，80年 3 月27日）
(15) 「楊梅 4 号」（ 1980年 ）コザ高校。
泡瀬の京太郎（ 前川守夫 ）14－20頁
(16) 「民俗芸能公演」（ 第10回県芸パンフ ）（ 1981年 ）。
沖縄市泡瀬の京太郎（ 10頁 ）
(17) 「沖縄の文化財」（ 1984年 ）沖縄県教育委員会。
泡瀬の京太郎（ 97頁 ）
(18) 「京太郎」（ 上演パンフ ）（ 1986年 ）沖縄市教育委員会。
あいさつ（1）。 泡瀬京太郎公演によせて―中地名常（2）。京太郎の起源について―当真勲（3）。 泡瀬京太郎の由来（4）。早口説，扇子舞，御知行の歌，馬舞者，鳥刺舞（5）。
(19) 「しまうた 7 号」（ 1980年 ）しまうた文化研究会。
沖縄市古謝村の京太郎（ 崎原恒新 ）（ 30－33頁 ）
(20) 「日本民俗学大系（9）」（ 1962年 ）平凡社。
京太郎（ 項目一本田安次 ）（ 271頁 ）

(21) 「勝連村誌」（1966年）福田恒禎，勝連村役場。
京太郎（項目）（329－330）
(22) 「新編風土記首里城周辺」（1972年）新垣恒篤，自費出版。
京太郎の馬舞者（339－341）。馬舞者後日物語（342－344頁）
(23) 「沖縄県史23—民俗2」（1973年）沖縄県教育委員会。
京太郎（196－204）。トイサシメー（205－207頁）
(24) 「呉我誌」（1976年）呉我区。
チョンダラー（義民）（245－246）。チョンダラーの由来（246－247頁）
(25) 「芸能の流転と変容」（1976年）池田弥三郎，実業之日本社。
ことほぎ（124－135頁）
(26) 「石川市誌」（1976年）石川市役所。
伊波の京太郎（410－417頁）
(27) 「よみがえる京太郎と古典舞踊の手」矢野輝雄。（タイムス朝刊，78年11月21日）
(28) 「まつり34号」（1979年）まつり同好会。
上平川の大蛇踊り（仲宗根幸市）281頁
(29) 「与那城村史」（1980年）新屋敷幸繁，与那城村役場。
京太郎（100頁）
(30) 「市民のひろば」（1980年）名護市報縮冊版。
呉我のチョンダラー（池宮正治）310－311頁
(31) 「故里は語る」（1982年）宜野座字誌。
宜野座の伝統芸能京太郎の紹介（118－124頁）
(32) 「沖縄大百科事典(中)」（1983年）沖縄タイムス社。
京太郎—当間一郎（801－802頁）
(33) 「沖縄大百科事典(下)」（1983年）
ニンブチャー（島尻勝太郎）（142頁）
(34) 「沖縄諸島（中部北部）の民俗芸能」（1985年）沖縄県教育委員会。
宜野座村の民俗芸能—宜野座の京太郎，大城学（121－132頁）
(35) 「琉球と袋中上人」（1924年，1958年再版）だん王法林寺。
チョンダラー（21—22頁）
(36) 「具志頭村史」（1961年）具志頭村役場。
玻名城の獅子舞と京太郎（375－377）
(37) 「ぐしかわ今昔物語」（1966年）安座間裕。
上江洲村の獅子舞と京太郎（132－133）
(38) 「折口信夫全集第16巻」（1967年）中央公論社。
にんぶちゃー。糸満（146－150頁）
(39) 「徳之島町誌」（1970年）徳之島町役場。

キョーダラ（マンキヤ踊り）（611－612頁）

(40) 「琉球史料叢書(1)」（1972年）横山重，東京美術。
琉球国由来記—京太郎（140頁）

(41) 「日本民俗誌大系第1巻」（1974年）角川書店。
「沖縄の人形芝居」（宮良当壮）227－279頁。
はしがき（232）。チョンダラーの発見（232）。アンニャ村訪問（233）。アンニャ村の生活（233）。特殊名称の解釈（234）。人形遣いとしてのチョンダラー（235）。人形及びその他の舞台装置（237）。チョンダラーの起源（238）。由来話に関連する出し物三種（240）。定文句三種（244）。その他の出し物6種（248）。京太郎詞曲集（269）。

(42) 「金城朝永全集(上)」（1974年）沖縄タイムス社。
沖縄の人形芝居「京太郎」詞曲の原歌その他（462－476頁）。琉球の人形芝居「京太郎」の「鳥刺し舞」の詞曲について（476－483）。

(43) 「沖縄芸能史話」（1974年）矢野輝雄，日本放送出版協会。
漂泊の芸人たち—京太郎—（69－86）

(44) 「沖縄文化研究2号」（1975年）法政大学沖縄文化研究所。
沖縄の人形芝居—チョンダラー芸能と念仏歌（池宮正治）（143－190頁）

(45) 「日本庶民文化史料集成第11巻。南島芸能」（1975年）31書房。
沖縄の人形芝居（池宮正治）（479－512頁）

(46) 「沖縄民俗同好会報21号」（1975年）沖縄民俗同好会。
サンダラー（今帰仁村諸志）（崎原恒新）（4－5頁）

(47) 「伊波普猷全集(7)」（1975年）平凡社。
京太郎詞曲集について（「琉球古今記」）（314－324頁）

(48) 「伊波普猷全集第(8)巻」（1975年）平凡社。
京太郎（項目—琉球戯曲事典）（76－77頁）

(49) 「奄美の文化」（1976年）島尾敏雄，法政大学出版局。
徳の島「キョーダラ節」考（小川学夫）（400－407頁）

(50) 「沖縄の外来宗教」（1978年）窪徳忠。弘文堂。
ネンブチャー（島尻勝太郎）（183－215頁）

(51) 「宮良当壮全集(12)」（1980年）第一書房。
沖縄の人形芝居（初版，1925年）（1－120頁）。沖縄の人形劇京太郎の思い出（123－126頁）。沖縄の人形芝居のことから—チョンダラーは大和下りの芸能（127—133頁）

(52) 「宮良当壮全集月報第2号（1980年）～宮良当壮全集月報13号」
資料「沖縄の人形芝居」を読みて（比嘉盛章）

(53) 「宮良当壮全集月報(2)」（1980年）
宮良当壮先生と「沖縄の人形芝居」と私（池宮正治）（3－5頁）

(54) 「宮良当壮全集月報(6)」（1981年）
「沖縄の人形芝居」に関する資料（書簡）（伊波普猷）（6－7頁）
(55) 「沖縄芸能文学論」（1982年）池宮正治，光文堂。
沖縄の遊行芸（チョンダラーとニンブチャー）（168－188頁）
(56) 「沖縄の人形芝居『京太郎』の研究」（1984年）宇野小四郎，現代人形劇センター。
沖縄の首かけ箱廻し京太郎(1)。チョンダラーという名称と由来譚(4)。渡来伝説につて(13)。アンニャ村のフレゥキマーシー(20)。京太郎の芸の実際(33)。所演とその内容(62)。結論(100)。あとがき(101頁)。
(57) 「宜野湾市史(5)資料編4）（1985年）宜野湾市役所。
仏まわしと京太郎（551－552頁）
(58) 「万歳敵討」「まんざい」「奥山の牡丹」

※ 文献は書名，刊行年，著者または編者，出版社，論文名（項目名），筆者，頁の順で記した。

注1. 〔15年戦争〕（1931～1945年） 満州事変より太平洋戦争まで継続された戦争の総称。

注2. 〔ヤーマールコーザー，カフンジャー橋由来〕
離別した妻からふみをうける部分，但しここでは偶然のであいとなっているし，妻への未練はない。

9. 泡瀬京太郎の歌詞と楽譜について

○採譜において，昭和31年の録音（地謡：佐久本嗣幸・田里友吉，音取り：高江洲義夫，馬舞者：喜屋武盛光・渡嘉敷直郎）と昭和46年の録音（地謡：伊佐真徳・喜屋武盛光，音取り：石原昌林，馬舞者：兼島兼福・渡嘉敷直郎）資料を参考にしたが，楽譜は調性，テンポの安定度を考慮して昭和46年の録音により近いものとなっている。

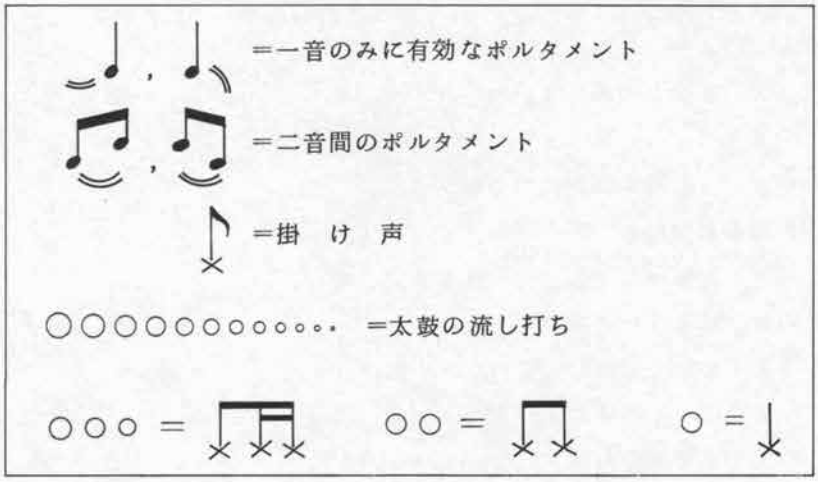
○「馬舞さー」に関しては，二人の馬舞者の掛け合いで音楽的旋律ではないので，楽譜は作成せず歌詞のみの記録にとどめた。昭和46年の資料は舞台で演じられているものの録音で，かなりの演劇性，アド・リブ的掛け合いが追加されているので，従来の資料など（例えば昭和40年日本コロンビアより発売された「沖縄総覧」の解説書に記された歌詞）を参考にして記述した。（この部分は昭和31年の録音資料により近い。）

○歌詞の表記はひらがなに統一し，掛け声のみかたかなで表記した。

○曲は規則的，かつ不規則的繰り返しが多いので，譜面上はできるだけ繰り返し記号を用いて譜面を簡素化することに努めたが，曲全体の流れは歌詞を参考にしていただきたい。

○「早口説」は三味線伴奏を伴うので三味線譜をつけ，名音の下に工工四表記の譜号を記した。

楽　譜　凡　例



「泡瀬京太郎」の歌詞

① 早（ハヤ）口（ク）説（ドウチ）

1. さてぃむうちゆやあさましや
   さてぃむうちゆうやあさましや
2. みぐりみぐりとぅあらたまる（繰返し）
3. うみぐぁゆひちあぎすいがたに（繰返し）
4. 京太郎しがたにうちやちり（繰返し）
5. いさみいさみて立ち出じる（繰返し）

② 御知行（ウチグー）

1. んーん　あっぱりがやりやり
さしみくぁんう　御主（クシュー）うがでぃそらい
にだりぬまちにや
あーちゃんくまさいな　ちーりちーりとぅ
まーしまっさい　さーしさっさい
御知行（ウチグー）や八百八十（ヘッピヤクハチジュ）やむんじんならびぬ
たいひゃーんーやー
ちょーどぅならびぬ　うゆえぬまざいや
つかしん　さーまざいな
うひゃくせ　さーまざいな
うみぐぁび　さーまざいな
うみゆや　さーまざいな
はるまで　さーまざいな

んーん　またよね　うしてーまでぃぬ
みーさいな　（ハッ！）
うしてーまでぃぬみーさいな　（ハッ！）
うしてーまでぃぬみーさいな

2. んーん　一万石（イチマングーク）ぬ御知行（ウチゾー）わさみ
一万石ぬ御知行わ
一万（イチマン）一石（イッコク）一斗（イットウ）一升（イッス）一合（イチゴー）一勺（イッサク）一（イッ）さちまでぃや
耳（ミミ）ぬはーにるうーさみる
うきとぅいわたしぬたーまいたーくぬ
たーまいた　（ハッ！）
うしてーまでぃぬみーさいな　（ハッ！）
うしてーまでぃぬみーさいな

3. んーん　二万石（ニーマングク）ぬ御知行（ウチゾー）わさみ
二万石ぬ御知行わ
二万（ニーマン）二石（ニーグク）二斗（ニートウ）二升（ニーッス）二合（ニンゴー）二勺（ニーシャク）二（ニー）さちまでぃや
耳（ミミ）ぬはーにるうーさみる
うきとぅいわたしぬたーまいたーくぬ
たーまいた　（ハッ！）

うしてーまでぃぬみーさいな　（ハッ！）

うしてーまでぃぬみーさいな

4. んーん　三万石(サンマングク)ぬ御知行(ウチゾー)わさみ

三万石ぬ御知行わ

三万(サンマン)三石(サングク)三斗(サントウ)三升(サンス)三合(サンゴー)三勺(サンシャク)三(サン)さちまでぃや

耳ぬはーにるうーさみる

うきとぅいわたしぬたーまいたーくぬ

たーまいた　（ハッ！）

うしてーまでぃぬみーさいな　（ハッ！）

うしてーまでぃぬみーさいな

5. んーん　十人(ジューニン)てぃわ十六(ジュールク)たんさみ

くんにんてぃわるくたんぼ

くがにむたんざむ　たからむ

ちーんちくいてぃぬ　くいがすいてぃぬ

あーわしたーくぬあーわした　（ハッ！）

あーわしたーくぬあーわした　（ハッ！）

あーわしたーくぬあーわした

③ 馬舞(シマメー)さー　（二人の馬舞者による掛け合い）

※太鼓（○○○○。。。……）流し打ち

「どーひゃーどー　前原(メーバル)おーぎ　ちゃんくるずそーうーね　おろろかち　どーひゃーどー」

「前原おーがー　よーがーひーがー　どーひゃーどー　きたいくーたいえんだんま」（※太鼓）

「うるくうるるかち　かちぬはなかちみんぐぁち　わたんじゃーわたいくぁーちどーひゃーどー」

「うるくうちくぁてぃ　かちぬはなかちくぁてぃ　わたんじゃーんかいうてぃてぃ　んぷくぁち　どーひゃーどー」（※太鼓）

「あれまたんどーひゃーどー　那覇(ナーファ)ぬまちぬ　みしげーてぃわ　みしげーすりとーてぃ　いみしぇーるくとぅぬ　どーひゃーどー」

「那覇ぬまちぬ　いーじぇーうにげーすりとーてぃ　おーえーがんどー　どーひ

ゃーどー」（※太鼓）

「あねひゃー　どーひゃーどー　下(シタ)ぬななまじり　てーくくにうっちゃる　たなばるだーぐ　きたいくーたい　えんだんま　どーひゃーどー」

「上(ウイ)ぬ七(ナナ)まかい　下ぬ七まかい　たなばるだーぐが　わたぶーなるが　うちくぁてぃ　どーしどー」（※太鼓）

「しどぅせーふくぁんさ　ぬいふなく　いーりきさういさ　どーひゃーどー」

「しいどーくんのうい　北谷(チャタン)読谷(ユンタン)山(ザ)　どーひゃーどー」

「あれまたん　どーひゃーどー（※太鼓）　唐(トー)からぬうあちれむぬ　ちゃなびくるかにやっくぁん　しぐへん　ちゅーかー　まかいすーりー　とーづーかー　とーどぅっくい　あーちれーむん　どーひゃーどー」

「大和(ヤマトゥ)からぬうあちでーむん　まかいすーりー　きりはんしはんし　うまぬきりわてぃ　どーひゃーどー」（※太鼓）

「あれまたん　どーひゃーどー　やちめーぐぁーたー　うあちれもの　きりはんしいがにし　やちむんばーらんくー　どーひゃーどー」

「やちめーぐぁーたー　うあちでーもの　きりはんしはんし　うまぬきりくるちどーひゃーどー」（※太鼓）

「あやーめーたー　うあちれーもの　くんもんうーばーらに　いーつしいぐ　どーひゃーどー」

「あやーめーたー　うあちでもの　みーばーらー　をーばーらー　からくいまちぶい　どーひゃーどー」（※太鼓）

「あれまたん　どーひゃーどー　しむぬみーくさーばーちーぐぁーたー　うあちれーもの　六尺(ロクサク)ひらたぐーしー　三百斤(サンビヤツチ)かかゆる　よーがーみじくぶさー　馬ぬきりばち　どーひゃーどー」

「しむぬみーくさーばーちーたー　うあちでーもの　三百斤かかゆる　よーがりあやーわ　馬ぬきりくるちうちくぁてぃ　どーひゃーどー」（※太鼓）

「あねまた　ひちむどぅち　むとぅぬさまひじゃーんかい　けーてぃいきがるやる」

「あねまた　ひちむどぅち　すーぎーじうがまち　やーかいけーでぃわるやる　どーひゃーどー」（※太鼓）

④ 鳥 さ し 舞

さんとぅりさーしぬみーさいな　（ハッ！）

さんとぅりさーしぬみーさいな　（ハッ！）
さんとぅりさーしぬみーさいな　（イヤ！）
さんとぅりさんとぅり
ちんぐるまんぐる　ちんだんちんだん
ぼーやぼーや　そーやうっとぅい
うっとぅいたーくぬ　うっとぅいた　（ハッ！）
さんとぅりさーしぬみーさいな　（ハッ！）
さんとぅりさーしぬみーさいな

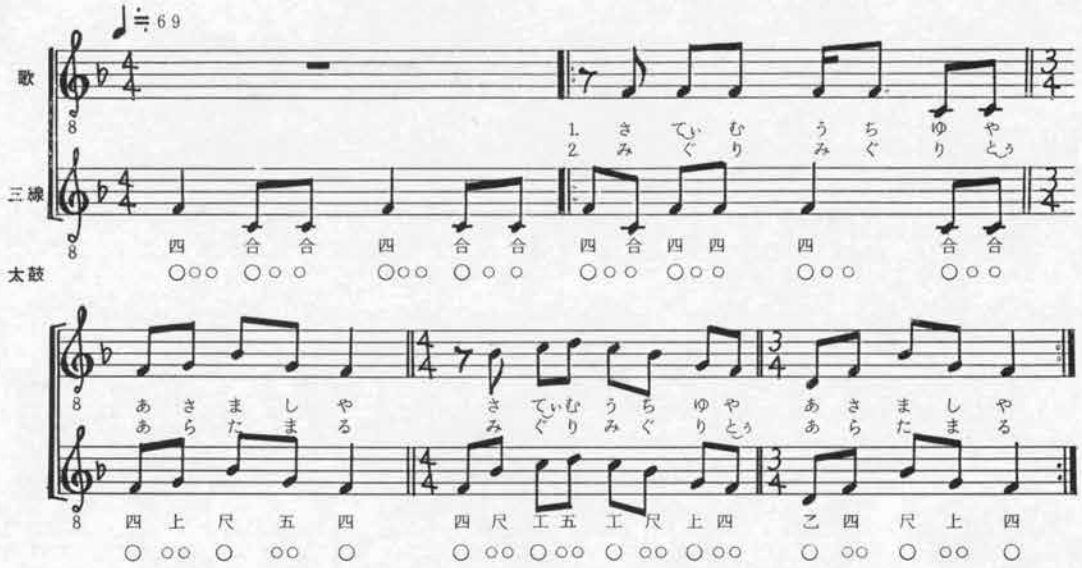
1. んーん　二日（フチカ）ひにわさみ　二日ひにわ
ゆたかくんがらさ　くん松（マーチ）ぬ下（シチヤ）に
がらさーがる居（ゆー）ちょーるい
がらさーがる居ちょーるい
はにぬ下から　あーしたまーがる
とぅーいちま
すりてぃむすりてぃむ
うっとぅいたーくぬ　うっとぅいた　（ハッ！）
さんとぅりさーしぬみーさいな　（ハッ！）
さんとぅりさーしぬみーさいな

2. んーん　四日（ヨツカ）ひにわさみ　四日ひにわ
ゆたかくんがらさ　くん松ぬ下に
がらさーがる居ちょーるい
がらさーがる居ちょーるい
はにぬ下から　あーしたまーがる
とぅーいちま
すりてぃむすりてぃむ
うっとぅいたーくぬ　うっとぅいた　（ハッ！）
さんとぅりさーしぬみーさいな　（ハッ！）
さんとぅりさーしぬみーさいな

3. んーん　七日（ナンカ）ひにわさみ　七日ひにわ
ながらぬ橋（ハシ）から　うーしんぼーじん
うんぐるみ　うすてぃるうんちゃりば
しじみーがる居ちょーるい

しじみーがる居ちょーるい
はにぬ下から　あーしたまーがる
とぅーいちま
すりてぃむすりてぃむ
うっとぅいたーくぬ　うっとぅいた　（ハッ！）
さんとぅりさーしぬみーさいな　（ハッ！）
さんとぅりさーしぬみーさいな

(1) 早　口　説

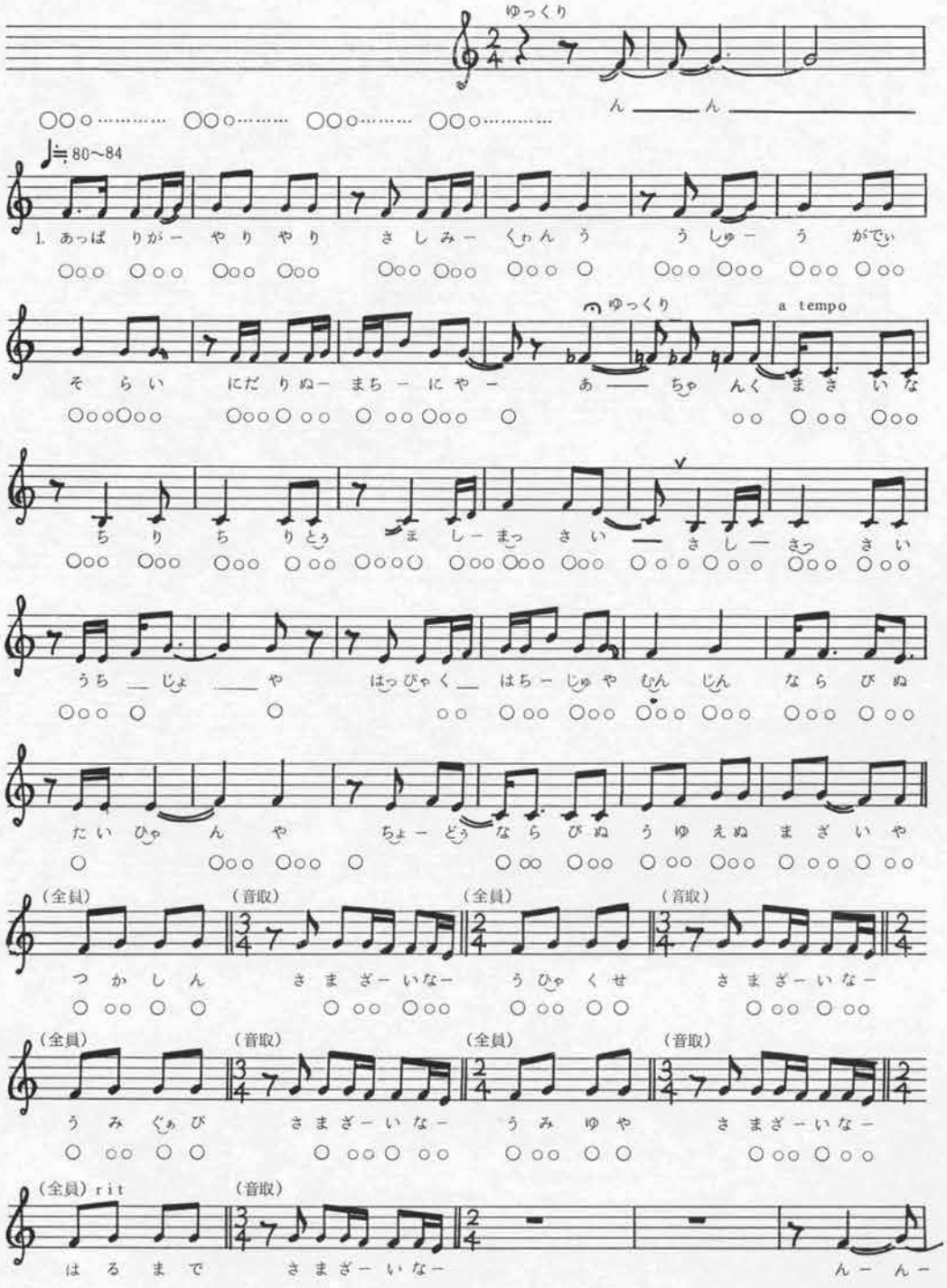


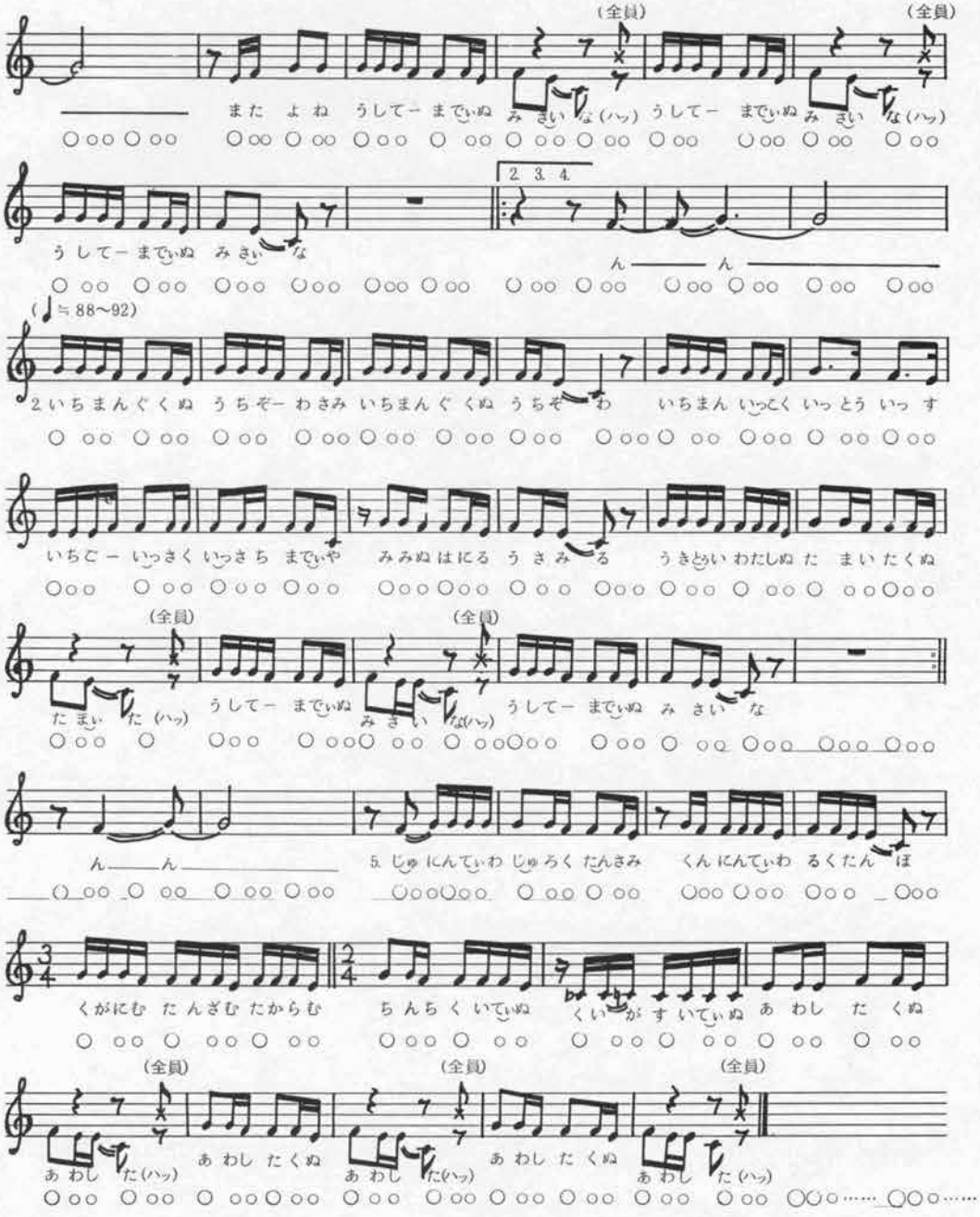
3. うみぐぁゆ　ひちあぎ　すいがたに（繰返し）

4. ちょーだら　しがたに　うちやちり（繰返し）

5. いさみ　いさみて　たちんじる（繰返し）

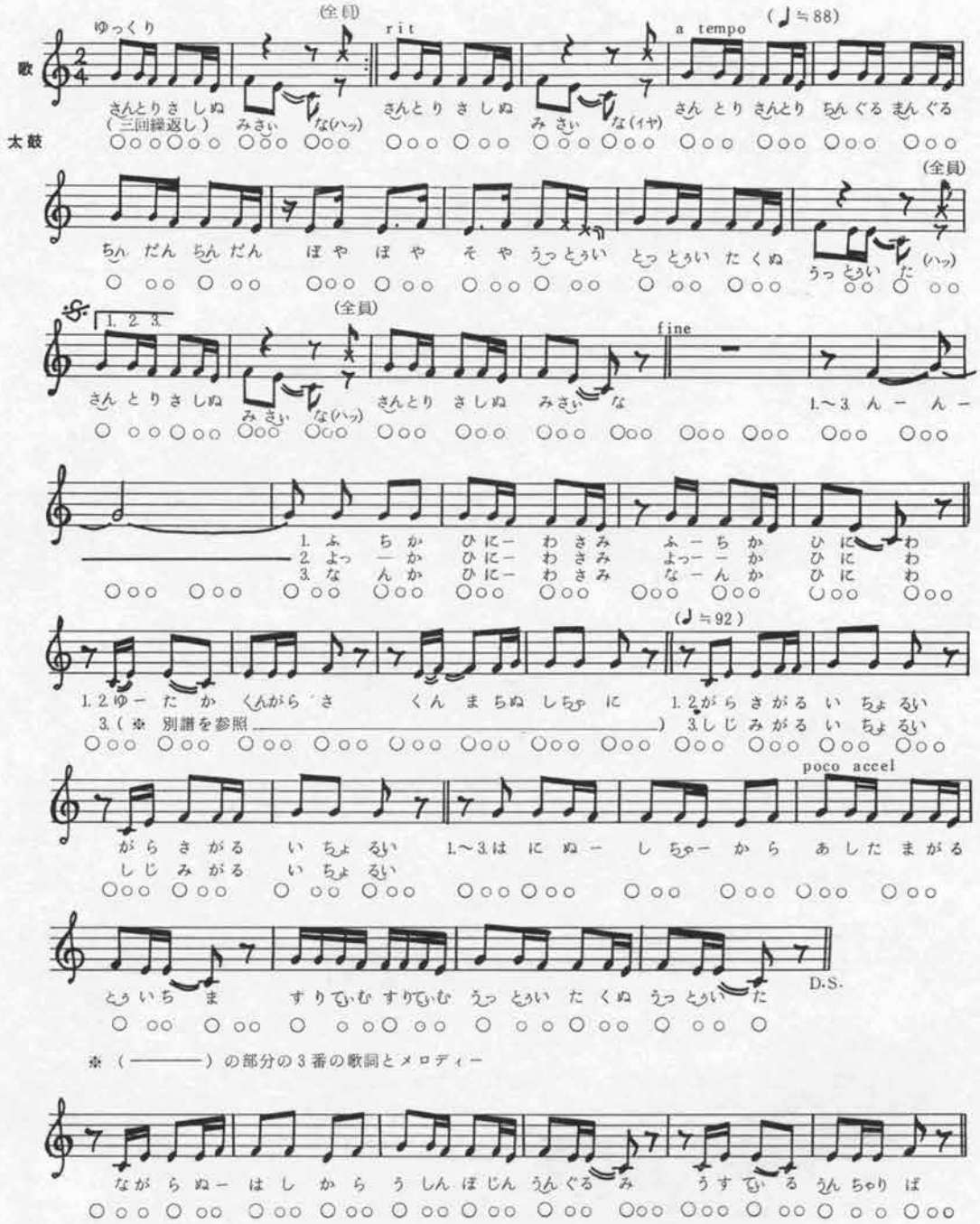
(2) 御　知　行


歌
太鼓
ゆっくり
ん ん
♩≒80〜84
1. あっぱ りがー やり やり さしみー くゎん う うしゅー う がでぃ
そ ら い にだ りぬー まち ー にや ー あ ちゃ んく ま さ い な
ゆっくり
a tempo
ち り ち りとぅ ま しー まっ さ い さ し ー さっ さ い
うち じょ や はっぴゃく はち ー じゅ や むん じん な ら び ぬ
たい ひゃ ん や ちょー どぅ な ら び ぬ う ゆ え ぬ ま ざ い や
(全員)
(音取)
つ か し ん さ ま ざー いなー う ひゃ く せ さ ま ざー いなー
う み ぐぁ び さ ま ざー い な ー う み ゆ や さ ま ざー いなー
(全員) rit
(音取)
は る ま で さ ま ざー い な ー ん ー ん ー



註 3番，4番の歌詞は2番の「一万一石一斗……」の数字がそれぞれ「二万二石二斗……」「三万三石三斗……」に変化するのみで，あとは同じである。

(4) 鳥 さ し 舞



☆ (———) の部分の3番の歌詞とメロディー

第3章　京太郎の分布

1. 県内の分布

県内の分布状況を把握するため，市町村教育委員会55ケ所にアンケートをお願いした。アンケートは，①京太郎について聞いたこと（ある・ない），②各市町村において京太郎を行った集落（ある・ない）等の調査項目で実施し，回答は28市町村から得られ，回答率は50％弱である。回答にもとずく分布が第1表であるその中でも，名護市・石川市・読谷村・勝連町・与那城村・那覇市・佐敷町・石垣市の8市町村から貴重な報告を賜わったので，第2表で紹介する。なお，今回の調査は調査項目・整理資料等，かならずしも満足のいくものではないが，これを機会に将来，市町村単位で京太郎詳細分布調査を行なうきっかけにでもなれば幸いである。

京太郎分布調査アンケート調査

Ⅰ　京太郎について聞いたこと

A．ある　　B．ない

①　いつ ＿＿＿＿＿＿

②　どこで ＿＿＿＿＿＿

③　誰から ＿＿＿＿＿＿

④　住　所 ＿＿＿＿＿＿

Ⅱ　当市町村において，京太郎を行った集落

A．ある

①　現在あるか

②　いつ頃まであったか

③　伝承者は健在か

B．ない

Ⅲ　備考欄（メモ）

＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

No.	調査地	京太郎について				No.	調査地	京太郎について			
		行った集落		聞いたこと				行った集落		聞いたこと	
		ある	ない	ある	ない			ある	ない	ある	ない
1	国頭村		○		○	28	糸満市				
2	大宜味村		○		○	29	大里村				
3	東村					30	与那原町		○		○
4	今帰仁村					31	佐敷町	○			○
5	本部町		○		○	32	知念村				
6	名護市	○		○		33	具志頭村		○		○
7	恩納村					34	玉城村				
8	宜野座村					35	伊是名村		○		○
9	金武町		○		○	36	伊平屋村				
10	伊江村					37	粟国村		○		○
11	石川市	○		○		38	渡名喜村		○		○
12	読谷村	○		○		39	仲里村				
13	嘉手納町					40	具志川村				
14	北谷町		○		○	41	座間味村				
15	沖縄市	○		○		42	渡嘉敷村				
16	具志川市					43	南大東村				
17	勝連町	○		○		44	北大東村		○		○
18	与那城村	○		○		45	伊良部町		○		○
19	北中城村		○	○		46	上野村		○		○
20	中城村					47	下地町		○		○
21	西原町					48	平良市		○		○
22	宜野湾市		○	○		49	城辺町		○	○	
23	浦添市					50	石垣市	○		○	
24	那覇市	○		○		51	多良間村		○		○
25	豊見城村					52	竹富町				
26	南風原町					53	与那国町				
27	東風平町										

凡例 ○ 現在ある，もしくはかってあった地域。

第1表　分布回答状況

No.	調査地	京太郎について聞いたことがある				各市町村において，京太郎を行った集落			備考
		い つ	どこで	誰から	住 所	現 在	いつ頃まであったか	伝承者は健在か	
1	名護市	1986年	呉 我	玉城文一		ある	現在も伝承中	健 在	呉我誌をみて池宮正治氏が伝承者にあう
2	石川市	1986年	伊 波	伊波信光	伊波24		昭和21年に1回	はっきりしない	最近では県芸にて上演（電話にて聞く）
3	読谷村	1978年	長 浜	民俗芸能調査で		ある	現在も伝承中	健在（保存会）	「京太郎」について読谷村立歴史民俗資料館紀要第7号に掲載
4	勝連町	ずっと前に	教育委員会で	浜区の前区長 津嘉山清輝氏	字浜54番地	字平敷屋区→現在もある(字平敷屋210番地 野呂内忠男) 字 浜 区→5年前に復活（字浜98番地 新里真吉）			
5	与那城村	幼少の頃	エイサーの場	誰彼となく		ある		健 在	京太郎という呼び方は知らず，俗称（サキカタミヤー，なかわち）
6	那覇市	1986年	首里崎山町 首里汀良町	多和田 真淳 真栄平 房敬	崎山町1－83 汀良町1－53	ある	戦 前	不 明	首里において京太郎は門づけ芸として考えられていたようであり，門づけをして金品をもらうことから，あまりよい感覚では見られていなかったようである。
7	佐敷町					ない	昭和初期	いない	
8	石垣市	1983年	自 宅	宮良信成	石垣83番地	ない	はっきりしない	いない	宮良信成さんの話によると，父宮良信知（死亡）が京太郎の人形二体を大事に保管していた。昭和20年頃？ 石垣小学校に郷土館が完成した時に要望されて展示したが，以後不明である。この事は東京の人形劇研究者等が調査に来たが不明なので残念がっていた。人形劇研究者等仲間では発見されれば今世紀最大の発見につながると残念がっていた。

第2表 回答データ

2. 沖縄市の分布

今回報告する泡瀬の京太郎以外にも，当市にはかって古謝自治会（旧美里地区）と諸見里自治会（旧コザ地区）でも京太郎が残っていた事が確認されており，また崎原恒新氏が後述紹介の文献でも「沖縄市古謝村の京太郎」を中心に報告し，その中で諸見里自治会でも上演されていた事を紹介している。更に当教育委員会も昭和53年度に古謝自治会，昭和57年度に山内自治会で聞き取り調査を行なった。次に，①古謝の京太郎，②諸見里の京太郎，③崎原恒新氏の「沖縄市古謝村の京太郎」を紹介する。

(1) 古謝の京太郎

調査は昭和54年3月29日に唯一の伝承者・知念亀氏（沖縄市古謝36番地，明治29年3月16日生）から聞き取りを行ないテープに収録した。調査員は古謝自治会公民館長・島袋武夫氏，当教育委員会社会教育課（当時）・仲本朝彦氏・津嘉山弘氏の3名が行ない，テープの翻字は宮城昭美氏（教育委員会文化課民話調査専門員）が担当した。次にテープの翻字を忠実に紹介するが，本来はほとんど方言で語られている。

質 京太郎といってよく劇場とかに出てやっていますがね。「古謝にも京太郎があって古いよ」ということを聞いたんですが，どういうものであったのか話を伺いに来たのですが……。

答 ここのものはな，ボクチョーシグ2人であるんだが，子供が入るんですよ7名であったのか。

質 馬舞いとかそういうものはありませんか。

答 いいえ，それはありません。

質 馬舞いとか鳥刺し舞いとか。

答 泡瀬のしているものは鳥刺し舞いといっていたらしいんだがな。

質 鳥刺し舞いとか馬舞いとかあって，4つに分かれていますでしょう。

答 ああ。自分らのところのものは，すぐ，昔は米や豆を収穫した後に大金持ちの家々を京太郎が廻りあるいた。ちょうど乞食が物を乞うように京太郎もそうやって貰っていたそうだからな。そうして，その時に京太郎が家々で歌をよんだらしいんだ。

質 これはどんなふうにして古謝に残っているんでしょうかね。

答 ※御冠船踊りにいらっしゃったタンメーという方に，古謝の村の人が頼んだらここにいらっしゃって教えて下さったそうなんです。あれは御冠船踊りといってちょうどあれは，今でいうとなんていうんですかね。

質 今もそう言っているんですよ。本にそうやって書かれています。

答 あの，天皇陛下の誕生日であったんじゃないかな。御冠船踊りの……。

質 泡瀬の京太郎は首里の寒川芝居というところから習ってきたというんでよ，明治の37年頃と言っていますがね。

答 あれは私達が青年の頃に※アシビをしていたものだからね。村々でアシビをしていたからな。だからその頃，（泡瀬の京太郎）見た者は皆元気でいらっしゃるはずだよ今も。

質 古謝の京太郎というのは，（泡瀬の京

太郎と比べて？）もっと古いものです。

答　ああ，そのことについて話すとしたらたくさんありますよ。皆これを習おうとして中には何もかも書き留める人もいたんだが，また，習うことができなくて，（途中で）放り投げたりしてな。

質　あなたが書かれたものは，私がずっと持っていますよ。

答　持っている？

質　はい。ずっと持っています。

答　ああそうか。だけどそこに残してあるとしても読めないはずよ。字を読むことは出来る筈だが，順序には……。ああ，ここにも書いて残して……。

質　ちがう，その書かれたものをできたらおじいさんがよむ時に（もう一度）書きとめることができたら上等ですけどね。

※聞き取り不可能

答　竹グワーに紙をつけてね，こんなふうにして（手に持って）踊る※ゼイ踊りが以前はあったからな。今はなんていうのかなあ，その踊りには。

質　※ターファーク（打花鼓）で持っているもののことかな。あれも中国のものでいろんなものを持っていますよね。

答　ちょうどこれを歌にして書いておいてあったものですよ，私のものは。

質　これはみんな後ろに書かれていますよ。

答　ああそうか，書かれているのか。そうなんだ，そういうふうに書いてあったのだが皆が習うことが出来ないんだよ。

質　7番までありますか。

答　子供か。ああ，みんなでそれくらいあるはずだよ。一番最初のものか，それは2人，2人で。1人はゼイを持ってね，1人はすぐ歌を読みに出るんだが。私がそれをやって，私から歌を読んでまわしていたからな。私が歌をうたうともう1人の人はゼイを持って踊りながら……。

質　この読むというのはなんですか。

答　はあ。

質　読むというのはこれを読み上げるわけですか。

答　そこに出て行って読むんですよ。むつかしいもんですよ。

質　これは，三味線も使われましたか。

答　いいえ，三味線はつかいません。

質　太鼓は使いますか。

答　あれはな，三味線というのは子供が踊る時に，ただ持って出るだけ。ナカラガニーで。

質　弾くわけではないのですか。

答　ウリ　ウンミヌモーシー　ジャリーガヨー　ヒチュルサーアヌ　シーミーヤヨー　ナンジャカーラー　クイヌチルヤトージ　ドゥーイ　ドゥーイ　チヂューメーはそうやって。また，また，三味線を持って出るのも，ゼイもって出るのもそうだけどね……，ウンミヌモーシーといって。

質　これは初めはなんですね。ウガマリソーリーといってそういうふうにやっていますね。

答　これは私達が初めにすぐ出て行ってやるものだ。これもみんな私が読んでいたんだよ，こんなにたくさんあるものみんな。もう1人の人はただ，子供の前をイーマチ　シムトーンヨー。そうして，前でこんなふうにゼイを持って踊り，私のものがよみ終わると（舞台の袖からか）すぐ出て舞台の廻りを踊り，終えるとそこに座った。そして，また，私が「ウー

リー」といって次の紹介をすると，（演じる）人が出てくると同時に私は，また，歌を歌いだすわけ。そうして，その人達が幕（舞台のことか）の廻りを踊り終え，いなくなると，次の人が出てきて，それも終わるとゴンゴンゴンゴンして言って「ウーリー」と言うと，（踊った人達のことか）それらの人はすぐ，2人（踊った人）は2人，1人の人は1人と飛び出してくるのでね，その時は，また歌を歌いだしたりするわけ。

質　あなたは，泡瀬の京太郎を最近ご覧になられました。衣装とかが昔と違っているようなんですがね。

答　一度はどこであったのか見たけれど。あの，テレビなどではよく歌をしているのだが。

質　戦前はご覧んになりましたでしょう，泡瀬のものは。

答　泡瀬のもの。それより（最近のものは以前に見たものより）もっと付け加えられているはずだよ。ひとつは私達のものに似ているものがあるんだが，それは，私達のところがやっているのを見て（真似）たものではないかと思う。習らおうとしていた人がいたが，もしかするとその人が付け加えたのではないかと思う。

質　衣装はどういうふうにしていましたか。

答　衣装はそれぞれみんなちがいますよ。

質　みんな違うのですか。

答　はい。みんな一様ではありませんよ。子供達は何名か，7名ではないか，7名でしょう。一番はどれからか。

質　これは読む人ですね。

答　はい。

質　読む人は1人ですね。

答　これはゼイ持ちですね。ゼイ持ちはミーマテーシヌ　スー（新又吉のお父さん）で，また読むのは私であったよ。だが，ウタニッチーというのがなんのことか全然わからないんだよ。

質　このソーゾーミーというのは。

答　ソーゾーミというのは。

質　これは子供ですか。

答　はい。これは2人，としているわけだね。酒屋の酒飲み，それから……。

質　これは2人です。それじゃあ，子供ではないわけですね。

答　ここで，合計はだされていませんか。何名といって。

質　いいえ。

答　7名か，7名であるはず。ソージョーミーから，ジュールシチ，ハチというのが1人ね。またウンミヌモーシーが1人ね。そうしてウリ　ウムエートゥ残ったものは1人ではないか。それから……。

質　チクンヌ　チクンヌ

答　ああそうか，チクンヌ　チクンヌ。チクンヌ　チクンヌが2人，それから…。

質　チャーズナーですね，これは。チャーブラーですか。

答　チャウラって，チャウラ。チャウラーラーだよ。チャウラーラーヨー　イララーヨーといって1人。

質　1人。ヤマボウシ。

答　ヤマボウシというのが何名かいるはずだ。ゼイ持ちから，棒を持つ人，シシをかぶる人が2人，また……。

質　この，ナンザクーが1人，1人ですか。

答　ランラコーはもっとあったはずだよ。ヤマボーシ。あれはクガニ持ってから踊ろうとする人が出るからな。

質　これはナンジャ(銀)，クガニ(黄金)持ちがいますか。

答　そう，そう。チョウラーラーというのが。

質　ここにナンジャ，クガニ持ちとありますが。

答　はい，はい。ナンジャクガニ，これが1人だよ。私が言っているのはそれだよ。これはずっと前の方だからな。その人が持っている物を取ろうとして，こいつらはやるから。それにこいつらが一番多かったよ，一度に出るから。

質　このクガニ，ナンジャ持ちというのは大人ですか。

答　ちがう，子供だよ。だから，それは。

質　みんな子供。それじゃあ，沢山の子供達ではないんですね。もしかすると7名ではなかったですか。

答　その時は学校1，2年生くらいの子供たちであったんだよ。終戦当時私達の公民館が今の所になった時に，これは(資料をさしていっているのか)したものであるはず。私は幕の後ろに隠れていて太鼓打ち，良く声の出る人は前の方に出してね。私はこの人達が歌を間違えないかと心配して幕の後ろで立っていたわけですよ。

質　豊吉おじさんと長善さんと2人で。

答　秀敏と豊吉とであったよ。だが，この人達がなかなか習得することができなくて。あのひとたちから教わることが出来なければ……。

質　秀敏？

答　秀敏。聞いてみなさいね，彼にも。

質　豊吉おじさん達も，もし……。

答　豊吉も2人だったよ。大人は2人であったんだよ。

質　結局14名。14～5名位ですね。沢山いますね。

質　これは必ず子供達ですか。青年がやるとおかしいですか，この子供役を。

答　子供だよ。

質　子供役は子供がやる。むつかしい。だいぶ違っていますね。

答　また見る方も子供がやるといいでしょう，踊るのも。

質　これは何ですかおじいさん。今からでもこの踊り方とか，歌の節まわしとかいうのは習うことができますか。

答　これはだね，私がね覚えたのは青春まっさかりの17，8才だったからな。私は親を早く亡くし，お兄さんもブラジルに行って私1人になったので，たくさんの畑を1人でやらなければいけなかったので，いつもきび畑に行っていた。(歌の文句を)書いてね，それが書かれているのがあるか。

質　みんな書かれています。

答　そうか。それだけみんな書いてね，キビの枯れ葉を取りながら，ゆっくり，ゆっくり読んだりしてね。そして，たまに忘れた時などは書いたものを，ふところから取り出して見て「ああ，そうか。そうであったか」と思い出し，またキビの枯れ葉取りをするというふうにして覚えたんだが，みんなは「こんな沢山あるものを，仲本はどういうふうにして覚えたのかね」とイーグラヌトーのスーらは話していたんだって。これはトゥクムトゥのウスメー達ね，あのような大先輩の時代にやったものを，私達のところがウスメーという方から習い復活させたんだよ。

質　トゥクムトゥ（徳本）のウフウスメー（大きいお爺さん）ですか。

答　はい。トゥクムトゥのウフウスメー。

質　この方は古謝の人だったんですか。

答　はい，古謝の人です。以前に私達の所でアシビをしていた人であられるんだって。ちょうど泡瀬がアシビをやっていたように。

質　正行おじさんが位牌を預かっている人ですか。

答　えー，書いた人か。

質　いいえ，今の人。さっきのウスメー。

答　ああ，さっきのウスメー？

質　ウスメーを今祭っているのはセイコーおじさんですよね。

答　ああ。はい，はい。そこに祭られている方ですよ。

質　この人は何才くらいの時になさったんですかね。

答　んー。

質　この方がアシビをしたのは，何才位の時ですかね。

答　60歳余りではなかったかな。もう，その時の60歳余りの人からは腰も曲がっているので仕事はしないで，隠居をしているんであって。だけど，この方も全部覚えていらっしゃったので私達に教えて下さったわけですよ。だけどこれはなかなか，習いにくいが忘れにくいものですよ。私は今でもゆっくりずつ読ましてくれるのなら全部読むことができますよ。

質　それなら，今度時間があるときに来て。

答　これは節ごとに全部変わっているからな。それに，全部同じ節まわしでずっといくわけではないから。ひとつ済むと音符が変わったりして。ほら，そこにあるだろう。私が読んで聞かしてみよう。もう，息が続かなくてできるかどうか。

質　1番はですね，ウガマリミソーリからですか。

答　はい，ウガマリミソーリ。

質　2番はハーパリガヤリヤリー

答　ウガマリミソーリヌ……そこに出て行ってから，この2人からだからね，ゼイ持ちと。ボロボローと出て行って。

ウガマリミソーリー　ターラーラーイーラーサシラー

あっているかよく見てごらん。

ウガマリミソーリー　ターラーイーラーサーシラーヌ　スラヨイクジミヌ　ワーカキーヌー　ワーラーヌー　イーシヌ　チルグワーヌー　ユーワイーキー　サンチリクブシヌ　ヌヌー　チーヌー　イワオートーナーリワールー　ウチナーヤー　シワ　チョルクタルカ　チマタンボイ　チョルクタルカ　チマタンボイ

それだけで一節ですよ。この意味あいはねまた，サンチリクブシヌ，ムンヌチミヌというのは沖縄がなんの心配もなく，これらが，サンチリクブシヌ石が「イーワーオートー　ナリワールー」岩となって始めて，こんな小さな石が岩になって始めて沖縄は幸せになるというわけ。

（その歌の）意味あいは，それから2番はウガマリ……何か。

質　ハッパリガヤリヤリー　サシミカンノー。

答　そこ，そこではすぐ，これまでは一緒に読むもの。

質　ここにですね，今，亀さんが終わられたところは座って太鼓を打てと書かれていて，次はそこから立ってハッパアリガヤリヤリー……。

答　(歌)がかわるとまた，太鼓もかわるからな。これは，太鼓の切り換えだからね。そこではまた，また音符が変わるからね。

ハーッパリガヤリヤリー　サシミカンドー
ウスー　ウガリソーライ　ヒダリガマスニ
ハ　サー　チャンクマジャイナ
マチートゥ　チートゥ　サーシ　サッサイ
マーシ　マッサイ
トゥシヌハジミヌ　トゥシハ　トゥーイティ
イッソーウーニヌ　タマヌサカジチ　ミー
ソーリワ
カンソーガー　チュクイタティテル　ティ
ンジヌカタナヤ　クシーニサシーイティ
グユーニ　マーシワ　ティーニムッチル
ナンデーファー　チタティティ

ナンデーファーというのは薙刀のことであるらしい。ナンデーファ　チタティティというのは……。なかなか意味は全部はわからないよ，今の人にはこれは。何をいっているか，なんて言っているのか。私達でもどんな意味だよといって受け取ったわけではないから，教わるにも苦労したんだが，その当時の人も。ナンデーファーというのは薙刀のことらしいが，これにもナンデーファーというし。また，サンチリクブシヌ　ムンヌ　チミーヌ　イワオトナルマディというのは，こんな小さな石ころが岩になって始めて沖縄は幸せになるのであって，それまでは沖縄には幸せはこないという意味あいであるらしい，始めの願いは。なかなか今の人が習うことが出来なくてこれまできて，私の婿がいつも「忘れないうちに書いておいてて下さい」と言われたので，書いておいてあったのですが……。

質　幾つかコピーをとっておかないといけないな。書いておいてもらって誰がなくしても……。青年会にもそういうことで預かっておきなさいよと言ったんですよ。区長が持っているんじゃあないかな。

答　これはだな秀敏にまずは持って行って見せて，読ませてごらん。こんなふうにして……。

質　豊吉おじさんがいいのではありませんか。

答　えー。

質　豊吉。あの方がよく覚えていらっしゃるようですが。

答　そうか。豊吉と秀敏二人だよ。

質　そうですか。

答　豊吉はゼイ持ちであったはずだよ。

質　それではですねお爺さん，豊吉さんらをいつか一緒にここにお連れして集まってですね，お互いに思い出しあいながら全部テープレコーダーに取っておきましょうね。そして，それを聞いてですね，「ここは少しへんだな」と思うところはなおしたりして。

答　これはだな，村にならいいと思うのですが，これは各字々にこれを……私達の字にだけ京太郎はあるので，よその字に「いくらあげるから教えてくれと」言われて頼まれても教えたらいけないよねと。これを教えてくれた人が私もこの年になるまで，これはよその人に教えてはいけないと，あそこからいらっしゃったお爺さんが「すぐ，簡単それを教えてはいけないよ」と。「もし簡単に教えて読み間違えたり，なんでもないものを読んだりしたら，始めに教えた人に対しても迷惑がかかるので，これを別のところに教えたらいけないよね」といわれたので，ト

ゥクムトゥのお爺さんたちも，そのいいつけをかたくなにまもり，一切よその所には教えることをしなかった。だが，自分の字でもそれを習う人がいなくて，こんなに長い間そのままにしておかれたということなんだがね。あの方も全部覚えていらっしゃいましたよ。

質　今度は幸いに青年達もやろうという意気込みですからね。これは是非残しておかないといけないものですよ，古謝部落に。

答　んー。

質　今の若者ですよ。

答　そうなんですよ。だから，みんな※エイサーをするにしても，他のことをするにしても習おうとしてここに来るので，書いて持たすのだが熱心ではないので習うことが出来ず，途中でほっぱり出したりしてしまうのでこんな状態になってしまったんであって。今の青年が，私が教えた通り，書いた通りに習っていたら伝承できていたはずなんだよ。これはまたワラバートゥイ　アシシムンクユー　アクトゥヤー。

質　今はここの泡瀬とですね，宜野座に京太郎が残っているんですよ。そして，それは大変大切にされているんですよ。京太郎の残っている所が少ないということで。

答　泡瀬の京太郎は当時活発におこなわれている頃見ましたよ。あそこがアシビをしてから……。

質　古謝にも京太郎があるということになれば，古謝部落は県内でも有名になりますよ。

答　これはあそこに出たものであるというからな。ウスーの御祝儀にね呼ばれて行って。古謝は棒だったというがね。これはまたひと1人，いや，1人ではない。こんなふうにして仲間を組んで行ってからに，余所のひとで何処の人であったのか，その人がそれをやったものであるらしい。これが一番になっていたんだって。

質　一番出来がよかったわけですね。

答　はい，はい。そうして，私達のところのウフアシビしたときにそのお爺さんが覚えていらっしゃるということを思い出した者が行って，お連れしてきたということです。

質　このさいですね自治会長さん，徐々に調査していかないといけませんね。

答　徐々にしかできませんよ。これを一度にいうと……。

質　歌ですよ。私がいっているのは歌の節まわしですよ。一度にやるとお爺さんを疲れさせてしまうので。

答　これは全部違っていますよ，節まわしは歌ごとに全部。

質　これは何番まであります か。

答　7番。

質　これは大変なものですね。

答　そうなんだ。言葉にしてもこれは今使っている話言葉ではなく，あの，ちょと変わっている言葉だからこれはなかなかちょっと覚えにくいものですよ。忘れにくくもあるが。習う人にとっては。

質　書物を見るとですね，この京太郎というものは内地から沖縄にきてですね，内地の言葉も沖縄の言葉もまざってしまい，たいそうわかりにくくなってきたそうなんですが。

答　そうだったはず。唐の言葉，大和の言

葉というふうにいろんな言葉があるのと同じで。

質　唐の言葉も入っているのではないですか。もしかして……。唐の言葉も沖縄の言葉も内地の言葉もまざってしまい，しまいにはわからなくなってきたのではないですかね。

質　それでは今日はこれまでにして……。

答　私はもう年をとってしまって，あなたが区長に変わられた時の送迎会にも行けなくて失礼しています。

質　いいえ，とんでもありません。もう元気になられてよかったですね。

答　気を悪くしないでください。今でも総会がある時は行かなくてはいけないと思っているのですが，体の具合があまりよくなくて，休んだりしているものですから。

質　それでは，これは徐々にテープレコーダーに取っておきましょうね。

答　習いたいと思う人がいたら是非，私が生きているうちに。私もまた後継者をつくっていたほうがいいと思うから。

質　これをなくしてしまったらいけませんからね。残しておかないと。

答　ちょうど自分達みたいに年を取っても，歩ける時にまでここのシマの人が習うことが出来なくて，いざ各々でやろうとしても結局分からなくて，こんな長い間…。

あれはまた，ひと文句ずつはお祝いの所でも酒が入ってくると「さあ，古謝の京太郎をしてごらん」といって立たすと，一文句ずつはフラフラしながらもよんでいたというからな。クチョーというのを知っていますかといってですね，あなたは京太郎を全部覚えていますかと聞くと「ゆっくり，ゆっりしたら思い出すことができるでしょう。だけど，どうかなあ，覚えているかなあ」と答えると「さあ，教えてくださいよ。青年達に教えてくださいよ」と上の幹部の人達が押しつけて，私達にさせていたわけであるはず。「あなたにはできるからあなたがやりなさいといって。これは是非もう無学の人には無理で，書き写して見ることのできる人でなくてはいけないから，あなたにはできるはずだから書き写して，ゆっくり，ゆっくり時間はあるから覚えて習ってやりなさい」といわれたので「できそうなら，それはやるよ」と答えて書きとめておいたわけですよ。1つ1つこんなふうに。

質　今となっては宝ですよ。

答　いいえ。これは，ただ今となっては昔はこんなふうにしてあったという例，印であるんだが。だけど，どこかしこにもあるものではないね。

質　宝になっているわけですよ。

答　皆さん，この辺りの人は分かっていますよ。泡瀬の京太郎と古謝の京太郎のことは。

質　この話は知花でも「古謝にあったらしいですよ」ということを聞きましたよ。

答　ああ，そうですか。歌詞によっては2～3行ぐらいしか載ってないです。二番目の歌詞は出だしぐらいしか。

あの当時のアシビでもですね，祖父さん達がやったというアシビでも，皆「あの京太郎はいつごろに行うので，それが終わらないうちに」といってアシビをみに行く人は出掛けよったそうですよ。必ず古謝の京太郎をみないといけないと言

って。すばらしかったんでしょうね。

質　これは明治になってから古謝ではおこなわれたんでしょう。

答　明治かな？

質　こっちに教えた人は王朝時代の人ですけどね。

答　京太郎はウスー※（御主加那志）時代に行なわれたというものらしいですからね当初は。これはきっと大和世になってからでしょうね。各字々に……。

質　この人が古いですからね。
　この徳本さんという人？
　聞いた人も大分古い人ですからね。
　さっきおっしゃいました御冠船踊いに出たという方の名は分かりませんか。

答　この京太郎を教えたという方ですか。覚えていたら教えることもできるが，忘れてしまいましてね。

質　今日はこれまでにして，また近いうちに寄りたいとおもいますので，その時はまた教えて下さいね。

答　彼等にそう言っておきなさい。これを見せてね，仲本のお父さんにも声をかけて一緒に教えて下さいと言って。彼はゼイ持ちであったからな，イリナカジョーグワー（西仲門）はイリナカジョーグワーはゼイ持ちで，私は太鼓打ちで。私は歌を読みながら太鼓を合わせていたからな。太鼓とあわせてこれを読んでいたからな。

質　太鼓というのはこれくらいのものですか。

答　はい，こんなふうにしてうつ太鼓。前にこんなふうに取りつけてね。

質　こんな，こんなふうにして打つわけですか。

答　はい。子供たちが全部出るとどんなにか……ちょうどここにいるくらいの子供たちであるからな。こんな子供たちが一人ずつ（舞台）に出るから。

質　まず，関係者を調べて一同に会する必要がありますね。それじゃあお爺さん，今日は本当に有り難うございました。
　また，話を聞かせて下さいね。

答　はい。私が書いたものを持っていれば，それを見て写すことはわけないことなんだが。いきなり，とっぴょうしにというと，ただ読むのを聞くばかりであって，どれは，どんなふうにやるということまではわからないさ。

質　（テープレコーダー）はずっーと続けてもできますし，何回でも遣り直しもできますからね。
　今日はどうも有り難うございました。
　また，時々寄らせてもらいますので，よろしくお願い致します。

答　はい，はい。これは役所が残しておけば……。

※唯一の伝承者・知念亀氏は他界された。
　痛恨の思いである。
　ここに記してご冥福を祈る。

凡　例

翻字について

① 方言の語りを方言に忠実に共通語訳したが，直訳では共通語として意味が理解しにくいところや，表現が不自然になるところは適宜意訳した。

② 共通語訳そのままで文脈が理解しにくいところは，補足する言葉を（ ）付して補った。

③ 話者の語りに忠実に翻字した。ただし，口癖の「あのう……」などは省略した。

④ 語りに区切りがない場合は，翻字者の判断で適宜句読点を打った。

⑤ 語りの混乱や，無意味な反復などについては補正した。

⑥ 民俗語彙など方言が活用されたほうがよい部分は，方言音でカタカナで記し（ ）を付して訳した。

⑦ 方言の語りを方言に忠実に共通語訳したが，共通語訳できなかった個所については方言音をカタカナで記し下線をひいた。

注記について …… 民俗語彙についてはできるだけ注記して説明した。

○御冠船踊り……冊封使を接待するために催した国劇。

○ア　シ　ビ……村芝居のこと。

○ゼ　　イ……ゼイは戦の大将が軍勢を指揮するときに打ち振るもの。

○ターファークー……中国より渡来し，那覇の久米で行われたもの。現在は中城村の伊集に伝承されている民俗芸能。
（打　花　鼓）

○エ イ サ ー……盆踊り。旧暦7月15日におこなう。

○御主加那志（うすがなし）……琉球王のこと。

参 考 文 献……沖縄大百科辞典　沖縄タイムス社
沖 縄 語 辞 典　国立国語研究所編　大蔵省印刷局

(2) 諸見里の京太郎

昭和57年度，沖縄県教育委員会文化課の民謡調査の際，諸見里自治会隣りの山内自治会を調査員の前川守夫氏と筆者が島袋蒲善氏（沖縄市字山里837番地，明治44年3月29日生）を訪問した時，話しの合間にかっては諸見里自治会でも京太郎が上演されていたと語ってくれた。

諸見里の京太郎は島袋氏が17才の頃村芝居で見学しており，その時が最後の上演ではないかと言った。当時，踊った方々は屋号・外間門（ホカマジョウ）・サンドウ内間で，健在なら島袋氏と同世代である。

また，先述の古謝の京太郎唯一伝承者の知念亀氏も若い時に見学に行った旨を崎原恒新氏に話している。いづれにしても，現在，当自治会では上演されてないので今後，機会があったら詳細な追跡調査を行ないたい。

(3) 崎原恒新氏の「沖縄市古謝の京太郎」

ここで報告するのは『しまうた』1980年・第7号（頁30〜33）の「沖縄市古謝村の京太郎」を著者の崎原氏の提供で掲載するものである。

沖縄市古謝村の京太郎

古謝村の伝承によれば，泡瀬の京太郎よりはるかに古いという。現存する唯一の保存者，知念亀は1895年生れであるが，彼が京太郎芸を習ったのが17〜18才の頃である。大体，1912年か13年頃のことである。彼に伝授したのが村の長老，トクムト（屋号）の知念カマーで当時，75才前後であった。カマーは伝授の条件で他村の者におしえぬことを条件にしていたといい，亀はその指示を現在にいたるまで固く守っている。カマーは京太郎からその芸をならったとかいい，彼の青年時代に村で演じた体験をもち，亀が伝授をうけたとき，村人達からもカマーはよく詞章などを覚えていたと評判になったという。亀は伝授の課程で詞章を筆記し，畑へいくときもたずさえ，時々とりだして暗記をたしかめたりして完全に記憶するに至った。

京太郎芸能伝授のきっかけは従来，古謝村では死者がでたとき桃原（ミウラ）のガンを借りてきて葬式を行っていたが，新しく古謝村のコーを仕立てた。その祝いの余興としてカマーがおしえたのである。

亀はその当時，現，沖縄市諸見里でも京太郎芸能があることを聞いて友人と2人で参考に見学にいった。諸見里の京太郎芸能は現，ゴヤ村のニンブー（ニンブチャー）から伝授をうけたといい，アシビの時になされたものと聞いた。諸見里の京太郎芸能はテラをはいて人形を指でおどらすものであった。古謝のが子供をつかうというちがいがあるだけでセリフやうたい方は全く同じであった。

以後，古謝村の京太郎芸能は8月か9月の頃で4，5年，あるいはそれ以上の間かくでおこなわれるウフアシビのときに演じられ。ワチアシビでは演じない。戦後も一時期はやったがうまく後継者が育たず今に至っている。

私が古謝村に京太郎芸能があったことをしったのは1979年夏，別のフォークロア調査で訪ねた折，公民館で詞章に接し，それをメモしたときにはじまる。

唯一の伝承者，知念亀が病気入院，通院などでなかなか会えず，結局，二度のききとり調査の結果が本稿である。公民館に所蔵されている詞章は亀より習った若い世代が覚えとしてメモしたもので欠落等の不備が多いという。本稿に掲載する詞章は亀が身内のすゝめによって最近，筆記したものによっている。

詞章は前半と後半にわかれる。前半の前に「昭和5拾5年元旦（沖縄市字古謝36番地屋号，仲元知念亀，85才）。京太郎とは。昔々，沖縄ノ旧藩時代ニ御主（ウスー）ノ前デ清太郎（チョンダラー）が

比琉球ノ国ハ，イツモ作ルム作ヒ，イツモ萬作シテ，琉球ノ人民ガ有福ニ暮シテ行ク願ヒウタ」（あきらかな誤字は改めた。筆者）とあり，後半の最初に「沖縄市字古謝36番地，知念亀。比琉球ノ国ガ毎年ミルクユガフーデ，ユフク（裕福ー筆者注）ノホトケヲドリソーゾーミ」と記されている。画用紙２枚に記録されている。前半を(1)，後半を(2)として以下に全文をかかげる。

(1) 前　半

(一) ヲガマリミソーリー，ターラーホーラ，サシラーヌスラユヰ，クジミヌワーカキーヌ，フゥーナーヌチルカーミヌユーワヰーテ，サンチリ，クブシヌ，モンヌチーミーヌイーワヲートナーリワール，ウチナーヤ，シワチュヌクタルカチマタンボリ

(二) ハツパリガヤリャリ，サシミカンローウスーヲガリソーライ，ヒダリガマヌスニハサーチャンクマザイナ，マチートチーニト，サーシサッサイ，マーシマッサイ，トシヌ，ハジミヌ，トシワトーイテ，イツソウーニヌ玉ヌサカジチ（玉の盃），ミンソーリワ，カンソーガーツクヒタテテルテンジヌカタナヤ，クシーニサシヰテゴユーニマーシワ，手ーニモッチルナンレーフゥーチタテテー

(三) フケールクルニ，フニウケテーアーサスーワーハーシューヰテハシヌモツトヌスーリヴ，マーチワユーヰテ，スユヰテーマクトヌ，ミンタシスラニワースラユヰ，タカラヤフニクダーヰテジーユヰソームクサンヅーシーテハシラヌユー(ママ)ーヌヒラキワー（公民館所蔵のにはひきつづき「チョード九ン合ヨ，ナニワヌチラテ」と記されている ― 筆者注）

(四) クークーヌトマヰカー，タダヌトマヰカ，ウキスヌトマヰカマチデーマーシワイノーヌマチデナンナージド，トマイヰテルスル，ワミクンゴー（九合）サーシテツーシングワンノルハシラユタテーテチョルクンゴーヨ，ナニワヌーチラテーアーマガアーヤシチーミワチンボーツクリワシーシンイヌチャナガミテライハーニートチョール，ハラミヌゥユエヌ，マザヰナ

(五) フチチョーヨー八百八十ヌムンヂン，ナラビヌラヰハーニートチョール，ハラミヌウユエヌ，マザヰナ」

(2) 後　半

(一) ウリ，ソーゾーヨ，ソーゾーミーガ，サカヤヌ（酒屋の）サキー（酒）ヤヨー，ヌヌリルーム（のんでも）ヒナラーン，クヌリルームチヂシーテアーチヌユーヌサーカジーチ（盃）アシワユルートヨ，チョヌクタルカチマタンボリ（公民館所蔵のには末尾のチヨヌクタルからはくりかえすとなっている ― 筆者注）

(二) ウリ，ウリー，ズヨルシチヨー，ハチー（17，８才は）サーマタウンナヌ（女の）サーカヰヨー，ヤチクークーヌチーヤヨ，チツヌサーカヰ，サーヤ，チク(ママ)クーヌチーヤヨ，チツヌ，サーカヰ（公民館所蔵にはサーヤチクヌよりくりかえすとなっている）

(三) ウンミヌモーシー

ウリ，ウンミヌモーシザニーガヨ，ヒツルサーンシン（ひく三味線）ーヤヨー，ナン

ザカーラクキーヌヨ，クガニトーヂル（公民館所蔵にはこのあと「サーナンザカラクイヌヨクガニトーヂル。返シ」とある— 筆者注）

(四) ユンニハカルー

ウリーウリ，オムエートヌクエーサーマタワシリーワ，シユーミヨーミンミタルーガニーガヨ，ユンニハーカルサーミンミタルーガ，ニーガヨーユンニハーカル（公民館所蔵のにはユンニハー以降の詞章は「クガニヌマシーシルユンニファーカル。「サーミンミタルーガニーガヨ，クガニヌマシシル，ユンニファカル」返す，となっている — 筆者注）

(五) 米ツキ女チクヌンヌチクンヌ

ウーリー，サー，チクンヌ，チクンヌヨーカヒナサー（公民館所蔵ではくりかえすとなっている — 筆者注）。アリアリ（公民館のではウリウリリとなっている — 筆者注）ターガ，（誰が）ワッサガ，カマーアンマーガルワッサル，ハナ（鼻）タッチマグラチ，ウヤヌヤーカイ（実家に）スビチヤラセー，サーチクンヌチクンヌヨーカキナ（公民館のではヨーカイナはなくくり返すとなっている）

(六) ガクフキ男

サー，チヤヲラーラヨ，イラーラーヨー，チヤヲラーラー，ヨーイラーラヨー，チヤヲラーラーイラー，ラーヨー，サーイヤヨーハキサミイヤヨーハキサー

(七) サーンヌヒーチヌメークダルー

ウリー，スリサーサ，サンヌヒーチヌ，メークダルガクガニ，ムツチテモールヤーサー，ナンザモツチヨテモールヤーサー，ヤマボウシガ11人テワ，クンニンテワルクタンボータダ一人テワモースニンテワマササツイクラサッサイ。（公民館のには(七)の句はない）

（完）

配役は公民館資料（罫紙4枚。クリップつづり。ペン字たてがき。タイトル，記録者及び記録年月日なし）によれば

読　　手	1名（ママ） 亀，豊吉
ゼイ持ち	1名 亀一，朝善，秀敏
ソーゾーミー	2名 （子 供）
ジユル七，八	1名 （ 〃 ）
ウンミヌモーシ	1名 （ 〃 ）
ウリウムエートヌ	1名 （ 〃 ）
チクンヌチクンヌ	2名 （ 〃 ）
チヤウラーラ	1名 （ 〃 ）
山ボーシ	
ゼ　　イ	1名 （子 供）
棒	1名 （ 〃 ）

シーミ(シ)？　　2名　（子　供）

ナンザクガニムチ　　1名　（　〃　）

となっている。

前半の部分は詞章をとなえる人（読み手）が客からみて右手の舞台の奥にたち，2本のバチでチヂン小をうちつつとなえる。それにあわせて一人の踊り子（同年輩）が扇をもって，調子をとって踊るしぐさをする。つつみをうつ人の衣装は花織のルジンをつけてエイサーのと同一である。

後半はチヂン小うつ人（詞章もとなえる）の「ウーリ」という掛け声に呼応してとびだしてくる。各章ごとに人物が入れかわり，たちかわる。

後半の(1)ソーゾーミーは子供2人。酒ニーブもつ。(2)のジュルク七八は女装。何ももたない。子供1人。(3)のウンミヌモーシは三味線をもつ。子供1人。(4)ウリウムエートヌはチョーバンとトーカチをもつ。子供1人。(5)のチクンヌ，チクンヌは米チチチャーアジン2本とウーシをもつ。子供2人。(6)はチャウラーラー（ガク）をもつ子供1人。(7)はゼイ，棒，シーミ（シ？），ナンザクガニもち。計5人の子供となる。踊り子たちはいずれも男の子で女の子はつかわない。小学校1年生位の子供たちをつかい，この子供たちは「仏小」の代りである。いずれも右手から登場するが最後の(七)のものだけは人数も多く左手から登場する。右手より登場したのは左手へ去り，左手より登場したのは右手へ退場となる。

知念亀によれば詞章は沖縄口，唐口，大和口の入りまざったものであるという。詞章は知念亀の記録に公民館記録を（　）して補った外，語句解釈のごく一部を（　）して記入した。句読点は全くないので便宜上いくつかうってみたが正しくうてたかどうかは不安がのこる。公民館所蔵記録も利用したが主体は知念亀記録と仝夫妻（とくに亀が中心）のききとりによるものである。

（1980年5月14日稿）

第４章　保存会の会則・組織及び沿革

1.　会則・組織

泡瀬京太郎保存会会則

第１章　総　　則

（名　称）

第１条　本会は無形文化財泡瀬京太郎保存会と称し事務所を泡瀬３区に置く。

（目　的）

第２条　本会は泡瀬に伝承されている郷土の伝統的芸能泡瀬京太郎を永久に保存するためにその普及活動と後継者の育成につとめることを目的とする。

（組　織）

第３条　本会の会員は泡瀬出身者にして泡瀬京太郎の保存，育成に積極的に賛同する団体又は個人をもって組織する。

（事　業）

第４条　本会は第２条の目的を達成するために次の事業を行なう。

1.　無形文化財泡瀬京太郎を永久に保存する。
2.　泡瀬京太郎の後継者の育成を図る。
3.　泡瀬京太郎の普及活動
4.　其の他必要な事業

第２章　役　　員

（役　員）

第５条　本会に次の役員を置く。

会長１名，副会長２名，書記長１名，会計長１名，監事２名，理事若干名，顧問若干名

（役員の任務）

第６条　会長は総会の召集並びに議事の運営をなす。副会長は会長を補佐し，会長に支障あるときはその任務を代行する。

理事は本会の目的達成のために組織の強化を図り泡瀬京太郎の保存とその後継者の育成に努力する。

監事は会計監査を行い会員に報告を行なう。

書記長，会計長の指示を受けて会務を担当する。

第7条　役員の選出は第3条の定めるところによる会員の中より選出し役員の任期は2年とし，但し再選を妨げない。

第3章　会　　議

第8条　本会の総会は会長の召集により，年1回5月に開催することを原則とし会長が必要と認めた場合は臨時総会及び役員会を開催する事が出来る。

第9条　総会は次のことを行う。

1. 会則の制定と改廃
2. 役員の選出
3. 予算案の審議決定
4. 決算の承認
5. 事業計画の審議及び決定
6. その他必要事項

第10条　本会のすべての機関は3分の2以上の出席者をもって成立し，決議は出席者の過半数の同意を得なければならない。

第11条　本会に次の部員を置く。

1. 舞踊指導部員
2. 衣裳方部員
3. 広報担当部員
4. その他必要な部員

第12条　本会の諸経費は補助金及び会費，寄附金をもって当てる。

第13条　本会の会計年度は毎年4月1日に始まり翌年3月31日に終わる。

第14条　本会に次の帳簿を置く。

1. 会　　則
2. 会員及び役員名簿
3. 会 計 簿
4. 領 収 書 綴
5. 議 事 録
6. 記 録 簿
7. 備 品 台 帳

附　　則

本会則は，昭和33年4月1日より実施する。

昭和55年9月6日一部改正

組　織

	氏　名	住　所	電　話
顧　問	小渡三郎	沖縄市字美里681	7-2184
	田里友吉	〃　桃原249	8-7638
	高江洲義仁	〃　泡瀬1611-5	7-9340
	伊佐真光	〃　大里450-1	7-4604
会　長	中地名常	〃　泡瀬1628-2	8-6603
副会長	当真嗣篤	〃　泡瀬1602-4	8-4661
	高江洲義宏	〃　1556-28	7-2178
書記長	当真勲	〃　泡瀬1665-6	7-6753
会計長	新垣宜一	〃　泡瀬1566-5	8-4203
演技指導部長	兼島兼福	〃　泡瀬1649-5	8-6085
地　謡	伊佐真徳	〃　泡瀬1624-11	8-5495
	渡嘉敷直信	〃　泡瀬1655-1	9-0636
化粧係	渡嘉敷節子	〃　泡瀬1625-1	8-1589
	宮里スミ子	〃　泡瀬1617-6	8-2429
ネ～トイ	喜屋武盛光	〃　泡瀬1643(A-104)	
馬舞者	伊礼嘉武	〃　桃原154	
	喜屋武達夫	〃　泡瀬1160	
踊り手	高江洲義男	〃　泡瀬1646-7	
	照屋清	〃　泡瀬1583-6	
	当真嗣一	〃　泡瀬1566-3	
	志喜屋孝一	〃　桃原県営アパート(3-7)	
	名嘉真吉孝	〃　泡瀬1618-2	
	嘉手川繁則	〃　泡瀬1670-1	
	普久原朝栄	〃　泡瀬1610-3	
	玉代勢宏	〃　泡瀬1620-2	
	中地雄高	〃　泡瀬1628-2	
	奥間政仁	〃　桃原136	
	阿波根朝広	〃　桃原232	
	小渡良徳	〃　桃原168	
	当真正勝	〃　泡瀬1571-8	
	高江洲義彦	〃　泡瀬1614-5	
	当真嗣勝	〃　泡瀬1621-7	
	当真一	〃　泡瀬1610-9	

2. 沿　　革

明治39年(1906年)　高原村に属していた泡瀬は，明治36年高原村より分立された。
泡瀬村の創設にともなって，明治39年村の龕(ガン)が仕立てられ，その仕立祝の御願行事として村芝居がしくまれた。
当時泡瀬村は各々の住戸域が五区に分割されていて，各区とも競って趣好をこらした出し物を村芝居で演じ合った。
二区に属していた喜屋武盛宏氏等数名の青年は首里からの移住者で寒水川(シガー)芝居の役者出身であった，冨里某の手ほどきを受けて，「京太郎」芸を習得し，二区の出し物として，はじめてそれを演じ好評を博した。

昭和 5年(1930年)　明治39年の初演からかぞえて25年目のこの年に龕の御願立の行事とし村芝居が催され，そこで「京太郎」が演じられた。

昭和15年(1940年)　皇紀2600年の祭典が各地で盛大に挙行された。中頭郡区では御祝典行事として演芸大会が催された。
皇紀2600年の祭典記念行事として催された中頭郡演芸大会で泡瀬の「京太郎」芸が1等賞を受賞。

昭和17年(1942年)　美東国民学校々庭にて上演，全校生徒に披露。

昭和23年(1948年)　明治39年泡瀬で初めて「京太郎」が上演されて以来，常に「京太郎」芸の伝承に中心的な役割をはたして来た喜屋武盛宏氏を中心に「京太郎」の練習はじまる。
喜屋武盛宏氏の記憶をたよりに，息子の盛実，盛俊両氏の他，数名の努力によって「京太郎」の演目のそれぞれの歌詞が記録されガリバン刷りでまとめられた。

昭和26年(1951年)　林清国氏等のよびかけで「泡瀬京太郎」保存会の結成準備がすすめられ，本格的な保存活動はじまる。

昭和27年(1952年)　美里村美浦（現泡瀬第一区）の美浦劇場で戦後初めて「京太郎」を上演。

昭和33年(1958年)　「泡瀬京太郎保存会」を結成。会長　田里友吉氏，会員　拾数名。

昭和33年(1958年)　琉球政府文化財保護委員会より助成金を受ける。

昭和33年(1958年)　本田安次氏歓迎，琉球芸能鑑賞会に出演，当鑑賞会で喜屋武盛宏氏泡瀬の「京太郎」芸の由来について解説す。（沖縄タイムスホール）

昭和39年(1964年)　第18回民俗芸能大会出演（沖縄配電ホール）

昭和44年(1969年)　第5回琉球フェスティバル出演（琉球新報ホール）

昭和46年(1971年)　泡瀬京太郎保存会，伝統芸能の保存に努力したことが認められ琉球政府文化財保護委員会より表彰さる。

昭和47年(1972年)　ふるさとの歌まつり出演（ＮＨＫホール）

昭和48年(1973年)　コザ市まつりにアトラクション出演（コザ総合運動場）

昭和48年(1973年)　沖縄県第1回民俗芸能大会出演（那覇市民会館）

昭和49年(1974年)　文化庁移動芸術祭第16回九州地区民俗芸能大会出演
（長崎県大村市民会館）
昭和50年(1975年)　沖縄青年会議所主催沖縄芸能まつり出演（沖縄市営体育館）
昭和50年(1975年)　第16回全国小中学校長会総会アトラクション出演（沖縄市営体育館）
昭和50年(1975年)　ＲＢＣ納涼祭り出演（奥武山運動公園）
昭和50年(1975年)　沖縄市まつり出演（沖縄市総合運動場）
昭和50年(1975年)　サントリー提供民謡大行進出演（海洋博会場）
昭和50年(1975年)　沖縄県第３回民俗芸能大会出演（海洋博　夕陽の広場）
昭和51年(1976年)　那覇まつり，市民フェスティバル出演（奥武山運動公園）
昭和52年(1977年)　沖縄県第５回民俗芸能大会出演（那覇市民会館）
昭和53年(1978年)　高教組結成10周年記念中部支部第１回文化祭賛助出演
（コザ高等学校体育館）
昭和53年(1978年)　第30回沖展アトラクション出演（首里高等学校々庭）
昭和55年(1980年)　泡瀬の「京太郎」沖縄県より無形民俗文化財に指定される。
昭和55年(1980年)　沖縄県青年団協議会主催，青年郷土芸能まつりに出演
（読谷村総合福祉センター）
昭和55年(1980年)　第15回全国史跡整備市町村協議会大会アトラクション出演
（労働福祉会館）
昭和58年(1983年)　沖縄ヒルトンホテルで「子供京太郎」公演
昭和58年(1983年)　与勝の里，愛の村慰問公演
昭和59年(1984年)　名護さくらまつりアトラクション出演（名護21世紀の森）
昭和59年(1984年)　緑寿園（沖縄市）慰問公演
昭和60年(1985年)　沖縄県文化課と宜野座村主催の文化講座で上演（宜野座村中央公民館）
昭和60年(1985年)　全日本居合道大会アトラクション出演（沖縄市営体育館）
昭和61年(1986年)　沖縄市教育委員会主催「泡瀬京太郎」鑑賞会で公演
（沖縄市立芸能館）
昭和61年(1986年)　沖縄県主催，泡瀬土地区画整理竣工祝賀会アトラクション出演
（美里工業高校体育館）

「京太郎」図版

「文化について」

「文化について」

泡瀬の京太郎

沖縄市文化財調査報告書第10集

昭和62年３月10日印刷
昭和62年３月30日発行

発行　**沖縄市教育委員会**

編集　沖縄市教育委員会文化課
〒904
沖縄県沖縄市字八重島１－１－１
TEL (09893) 9－0022

印刷　**海邦堂印刷**
TEL (09893) 3－1341